

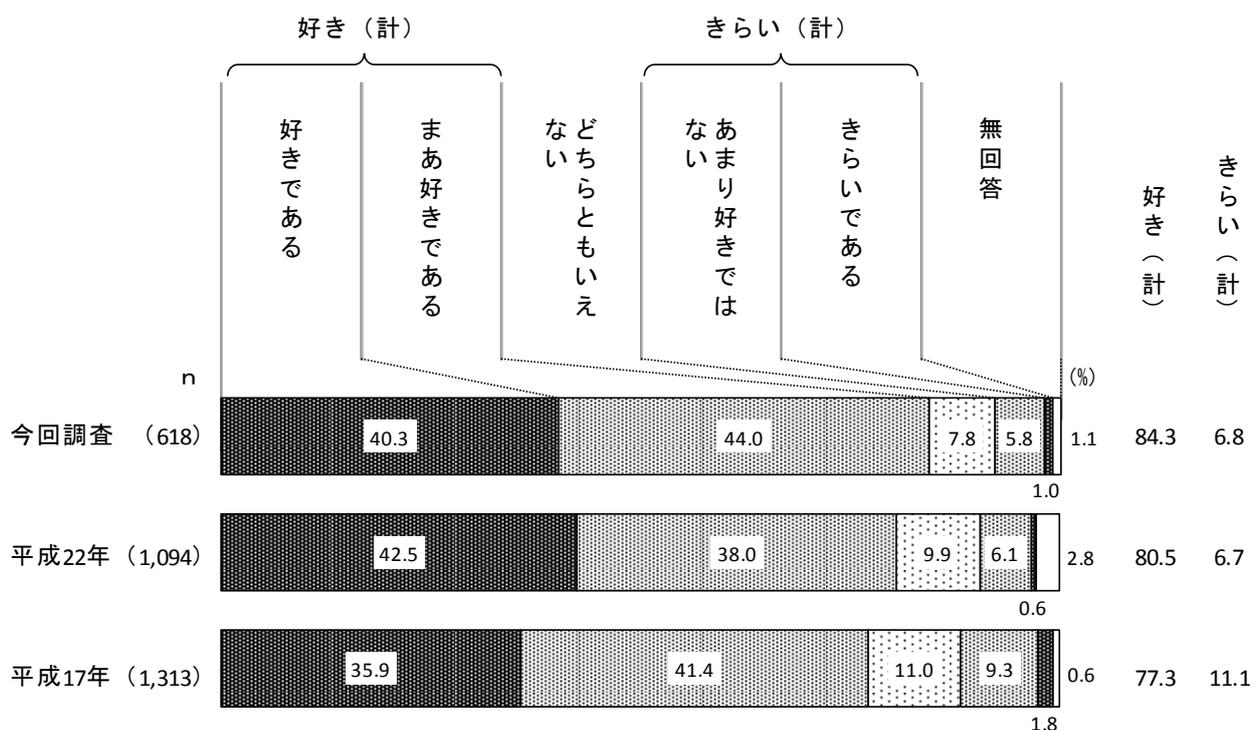
第2部 調査結果の詳細

第1章 子ども・若者の生活

1 居住地

(1) 居住地の好意度

問1 あなたは、現在住んでいるところが好きですか。(〇は1つだけ)



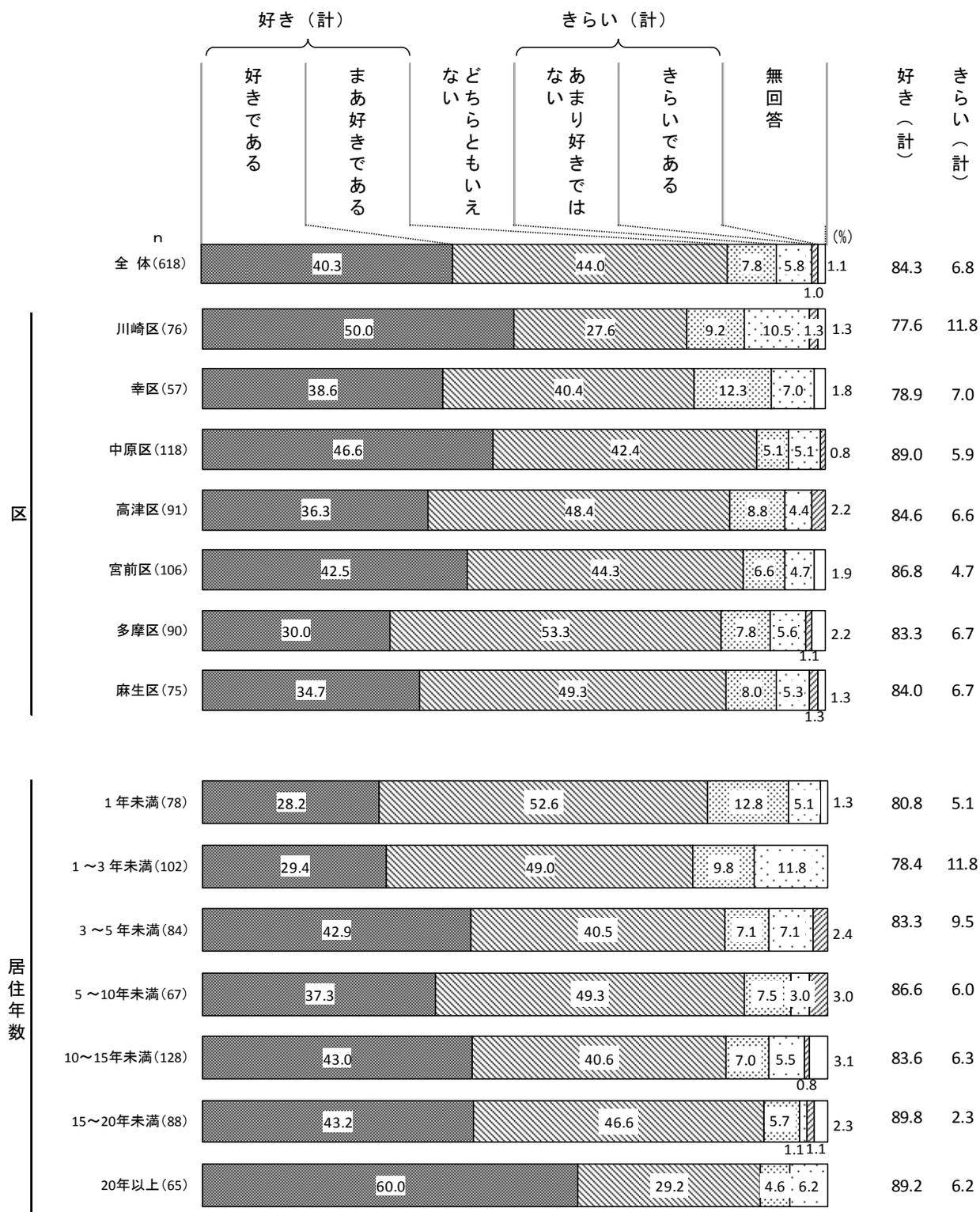
居住地の好意度は、「好きである」の割合が40.3%となっており、前回の平成22年度調査と比較すると、2.2ポイント減少しているものの、「まあ好きである」(44.0%)と合わせると、84.3%が『好き (計)』と回答しており、過去3回の調査では最高となっている。

一方、「あまり好きではない」(5.8%)と「きれいである」(1.0%)を合わせた『嫌い (計)』は、6.8ポイントと、前回の調査とあまり変化していない。

区別で見ると、どの区も75%以上が『好き (計)』と回答しており、なかでも【中原区】が89.0%と最も高い。

居住年数別で見ると、年数が長くなるほど好意度が高い傾向にあり、15年以上の居住者では9割近くが『好き (計)』と回答している。

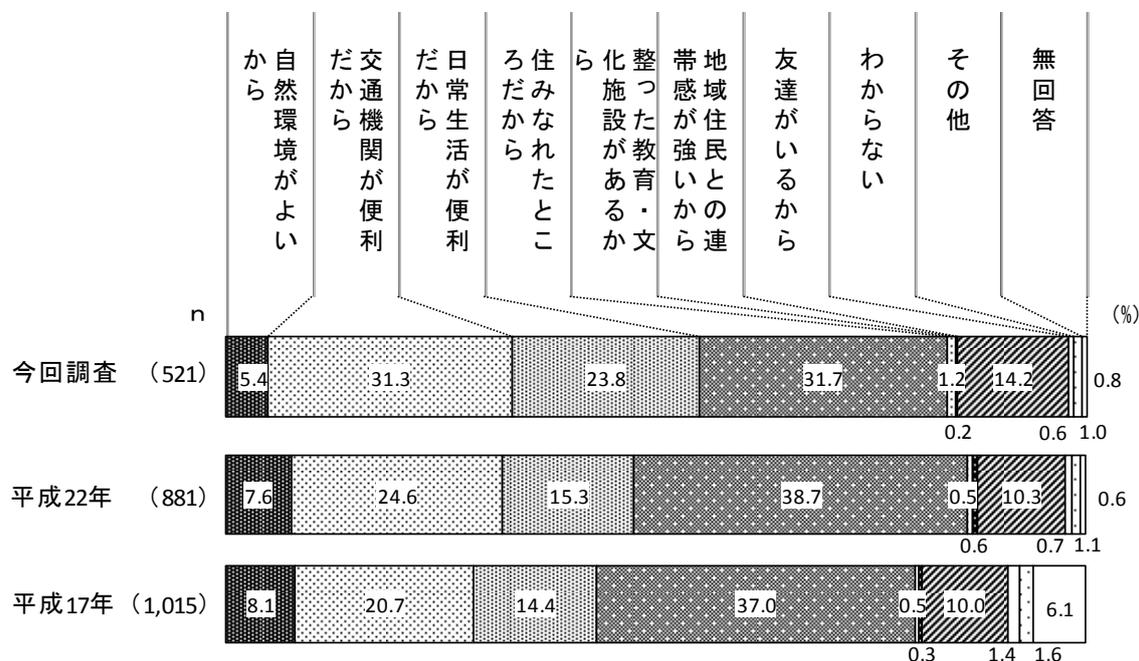
○居住地の好意度（区別／居住年数別）



(2) 居住地が好きな理由

【問1で「好きである」「まあ好きである」と回答した方への質問】

問1① その主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)



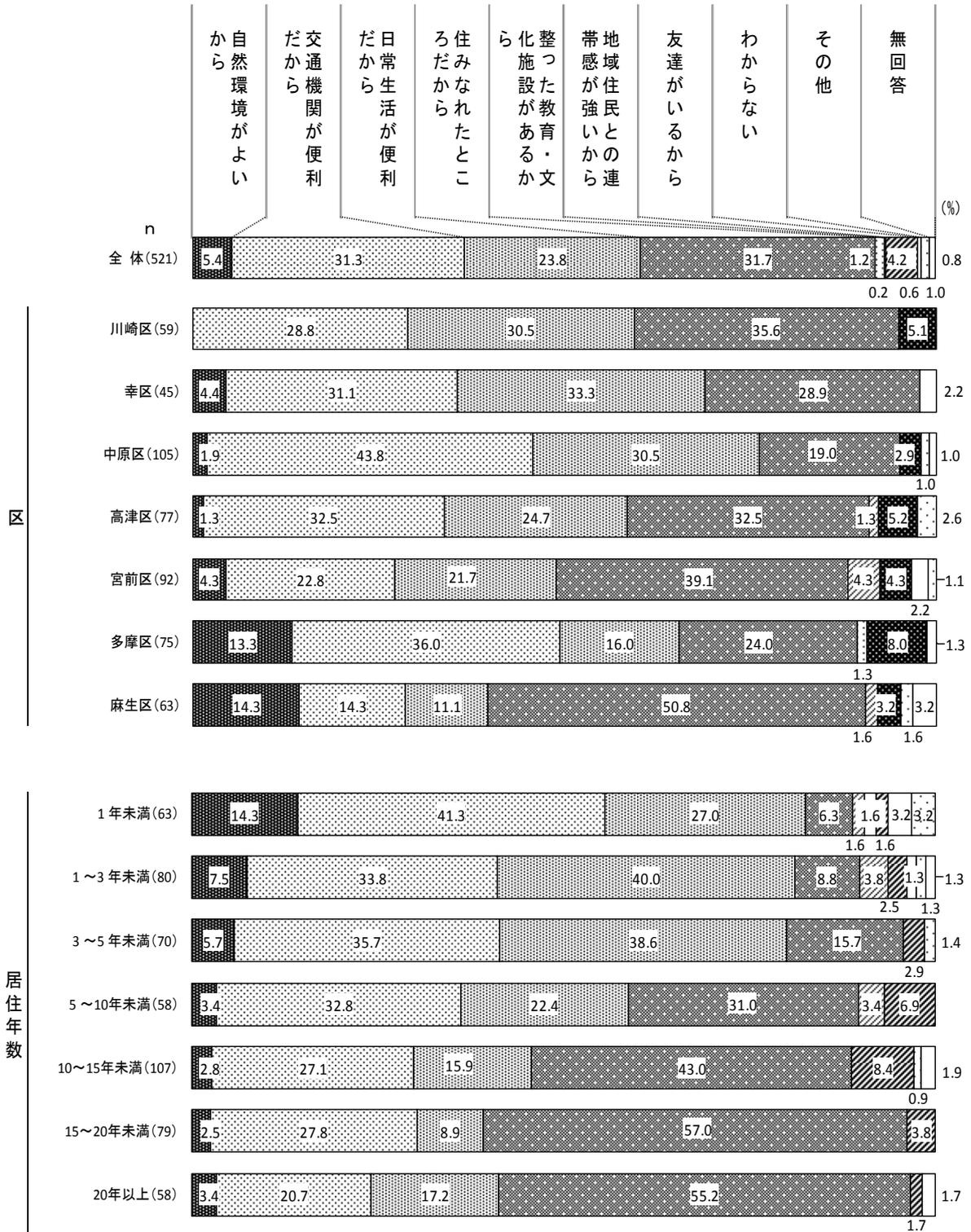
居住地が好きな理由は、「住みなれたところだから」が31.7%と最も高く、次いで「交通機関が便利だから」(31.3%)、「日常生活が便利だから」(23.8%)、「友達がいるから」(14.2%)の順となっている。過去の調査結果と比較すると、「交通機関が便利だから」と「日常生活が便利だから」という理由が増加傾向にあり、その一方で「自然環境がよいから」という理由が減少傾向にある。

区別でみると、「住みなれたところだから」の割合は、【麻生区】で50.8%、「交通機関が便利だから」の割合は、43.8%の【中原区】が最も高くなっている。

居住年数別でみると、【1年未満】の居住者は、「交通機関が便利だから」という理由が最も多く、【1～3年未満】になると「日常生活が便利だから」、【5～10年未満】になると「住みなれたところだから」という理由が増えていき、【10～15年未満】以上でその割合が最も高くなっている。

第2部 調査結果の詳細

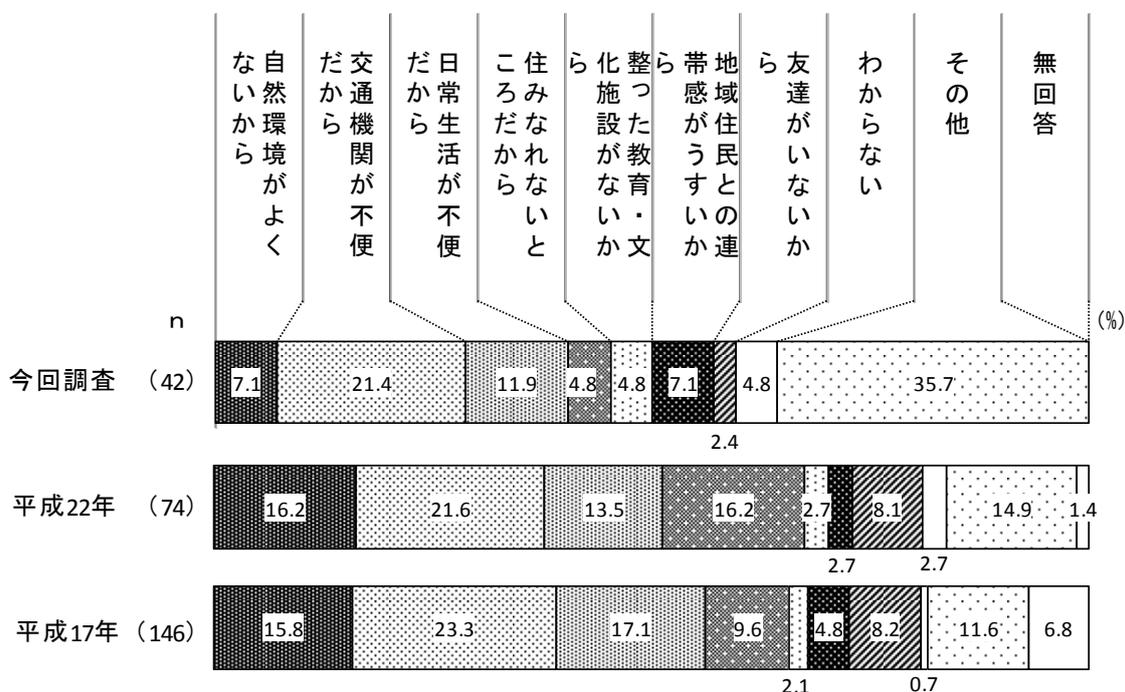
○居住地が好き理由（区別／居住年数別）



(3) 居住地がきれいな理由

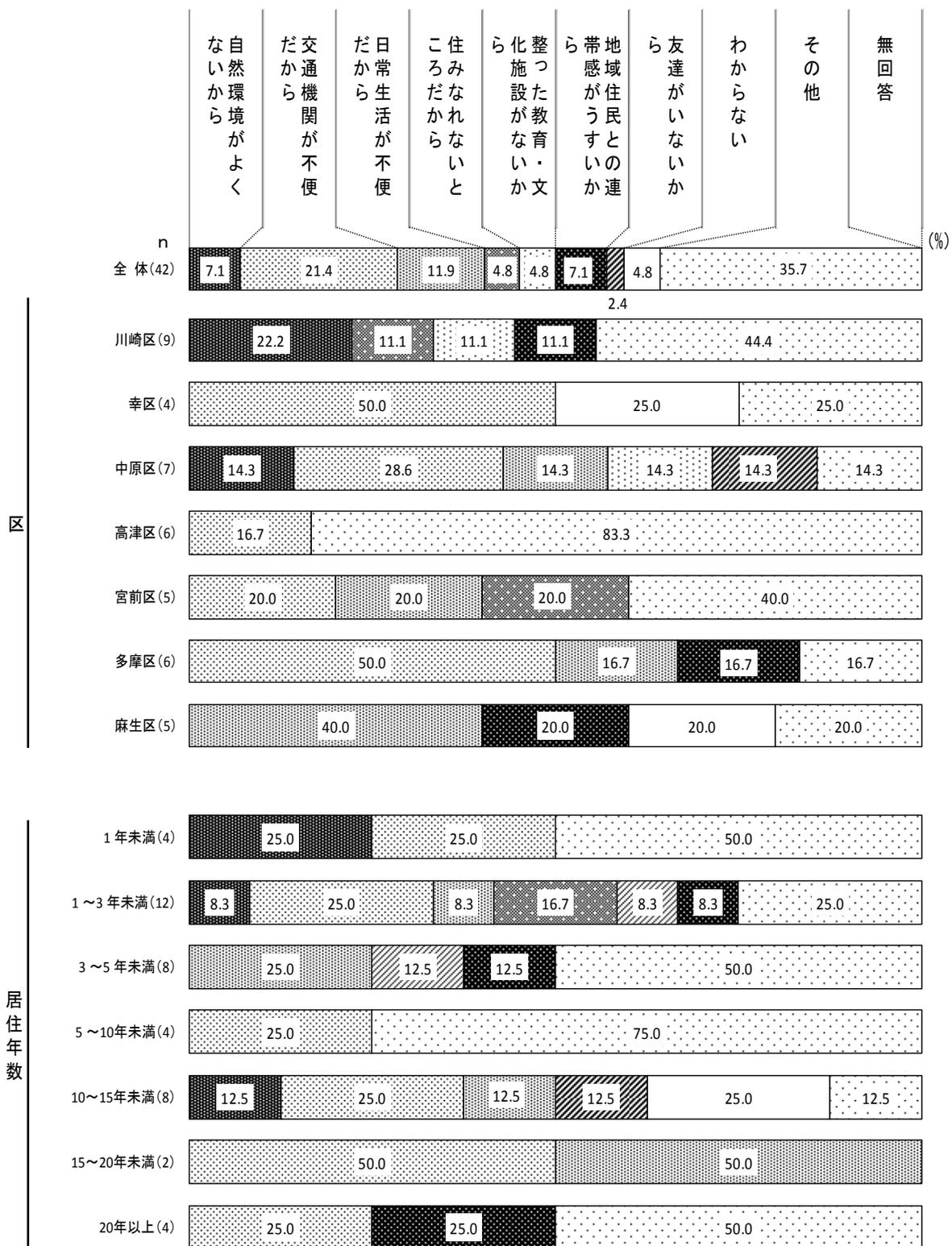
【問1で「あまり好きではない」「きれいである」と回答した方への質問】

問1② その主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)



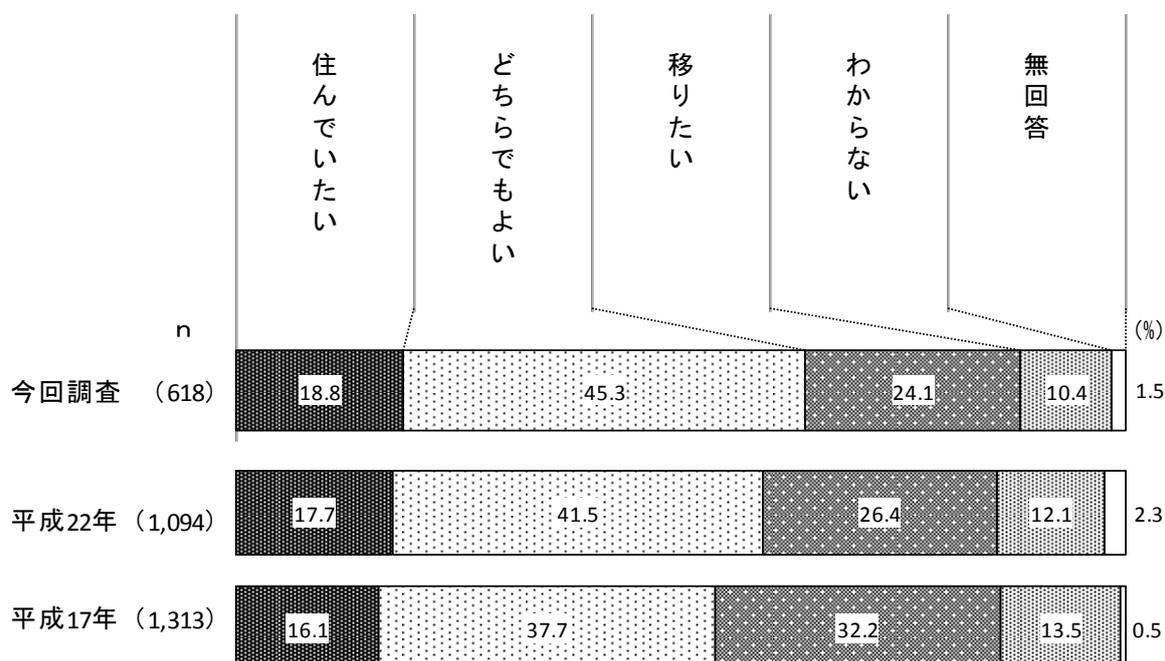
居住地がきれいな理由としては、「その他」の割合が35.7%と最も高く、前回の平成22年度の調査と比較すると、20.8ポイントも増加しており、その内容は、「治安の悪さ」、「騒音」、「商店がない」などがあげられた。また、その他のきれいな理由としては、「交通機関が不便だから」(21.4%)や「日常生活が不便だから」(11.9%)などの割合が高い。

○居住地がきれいな理由（区別／居住年数別）



(4) 定住意向

問2 あなたは、将来ずっと今のところに住んでいたいと思いますか。(〇は1つだけ)

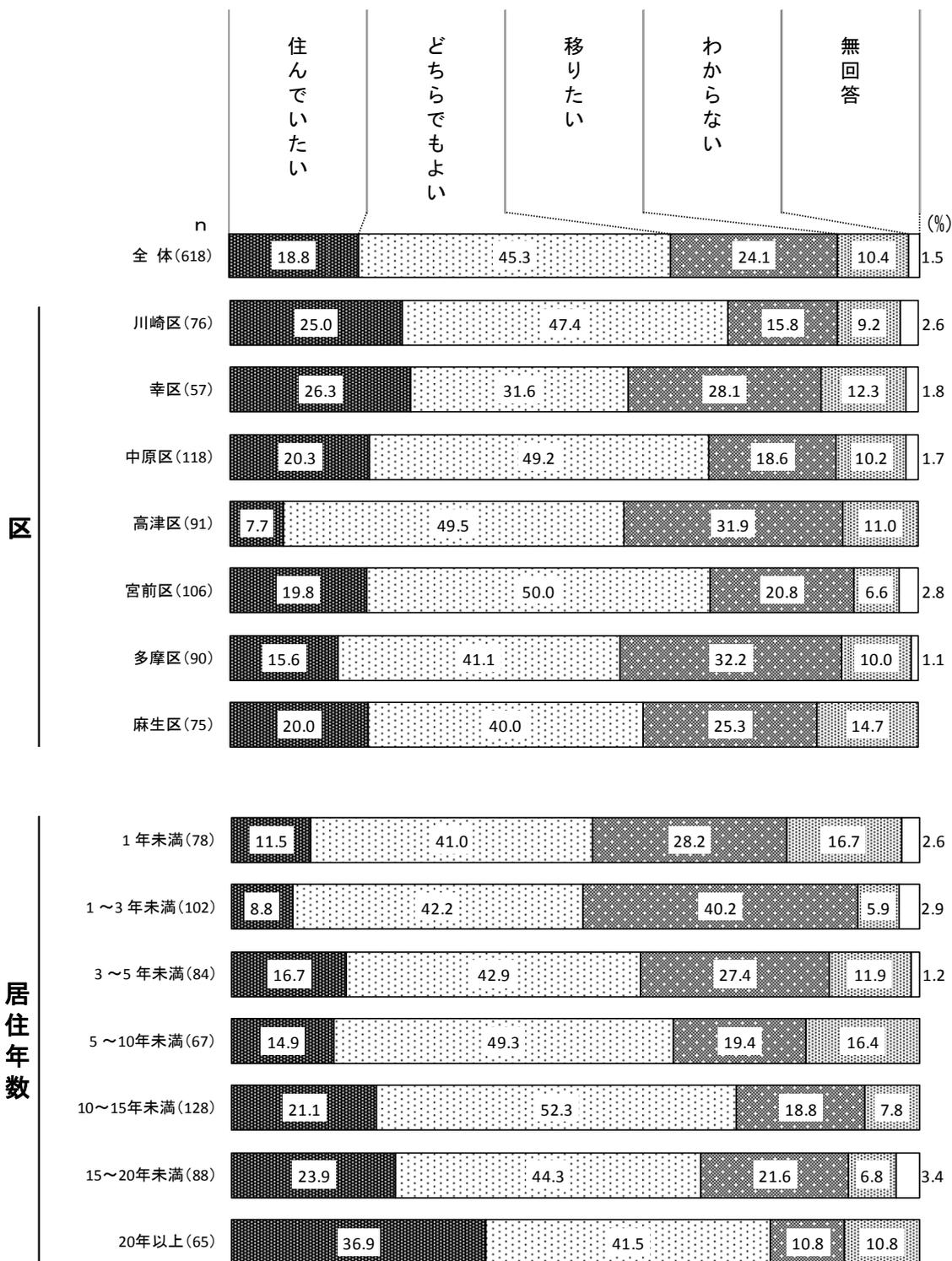


定住意向は、「どちらでもよい」が45.3%と最も高く、次いで「移りたい」(24.1%)、「住んでいたい」(18.8%)、「わからない」(10.4%)の順となっている。過去の調査と比較すると、「どちらでもよい」が増加傾向にある。

区別で見ると、どの区も「どちらでもよい」の割合が最も高くなっているが、【川崎区】では、「移りたい」よりも「住んでいたい」の割合が高くなっている一方、【高津区】や【多摩区】、【麻生区】では、「住んでいたい」よりも「移りたい」の割合が高くなっている。

居住年数別にみると、年数が長くなるほど、「住んでいたい」の割合が高くなり、特に【20年以上】では36.9%に達している。

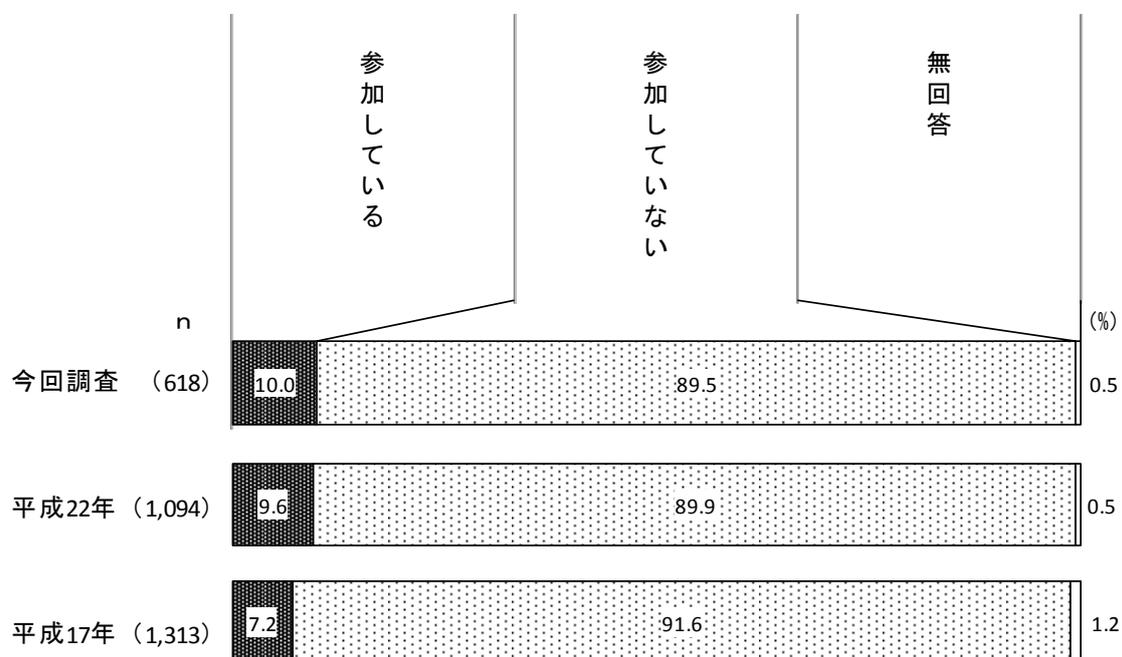
○定住意向（区別／居住年数別）



2 地域での活動

(1) 地域活動への参加

問3 あなたは現在、地域の活動に参加していますか。(○は1つだけ)



地域活動への参加は、「参加している」が10.0%、「参加していない」が89.5%となっている。平成22年度調査と比較しても、この割合はほぼ変わらない。

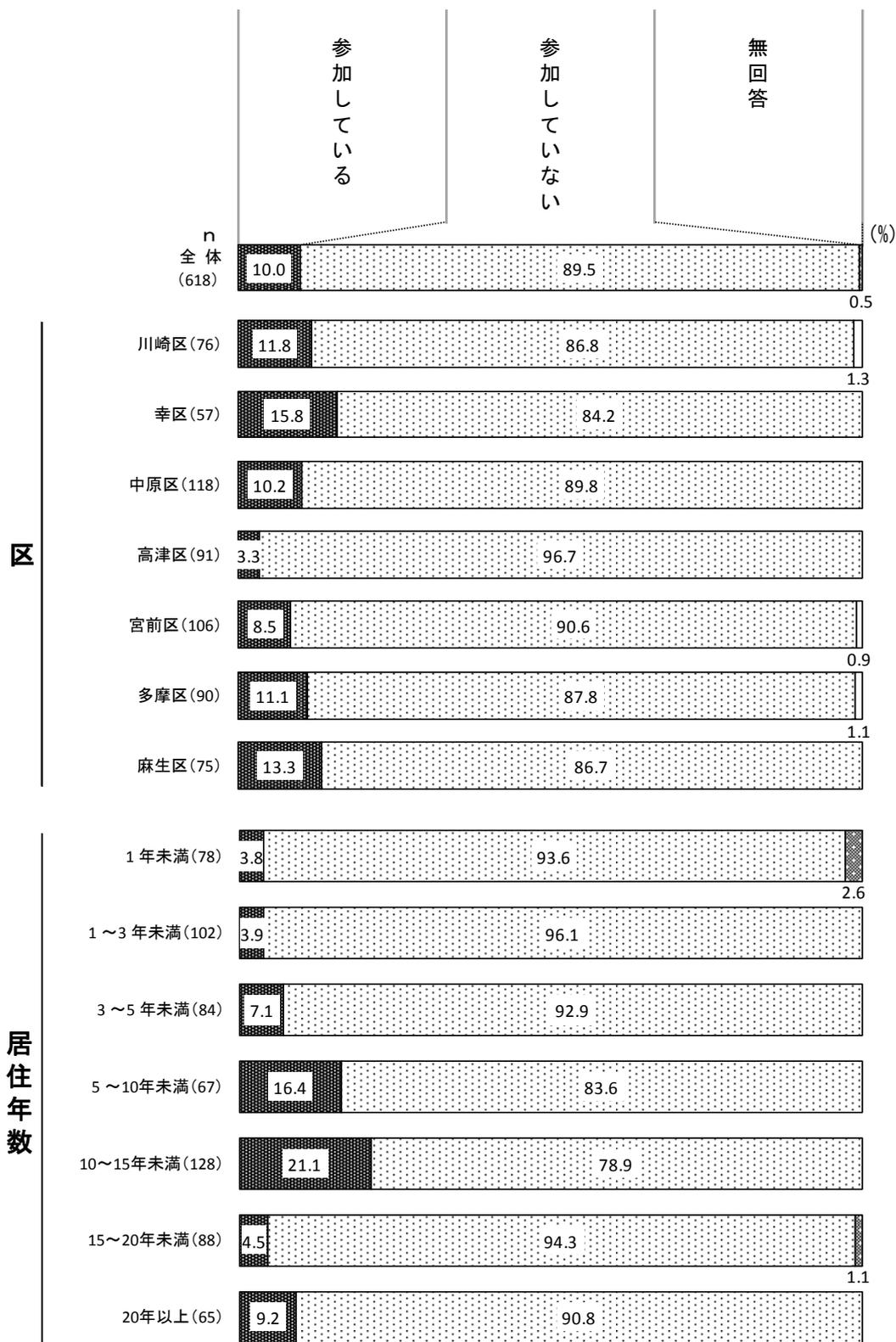
区別でみると、「参加している」割合は、【幸区】が15.8%と最も高く、次いで【麻生区】、【川崎区】、【多摩区】、【中原区】の順となっている。

居住年数別でみると、「参加している」割合は、【10～15年未満】で唯一20%を越えており、21.1%と最も高かった。

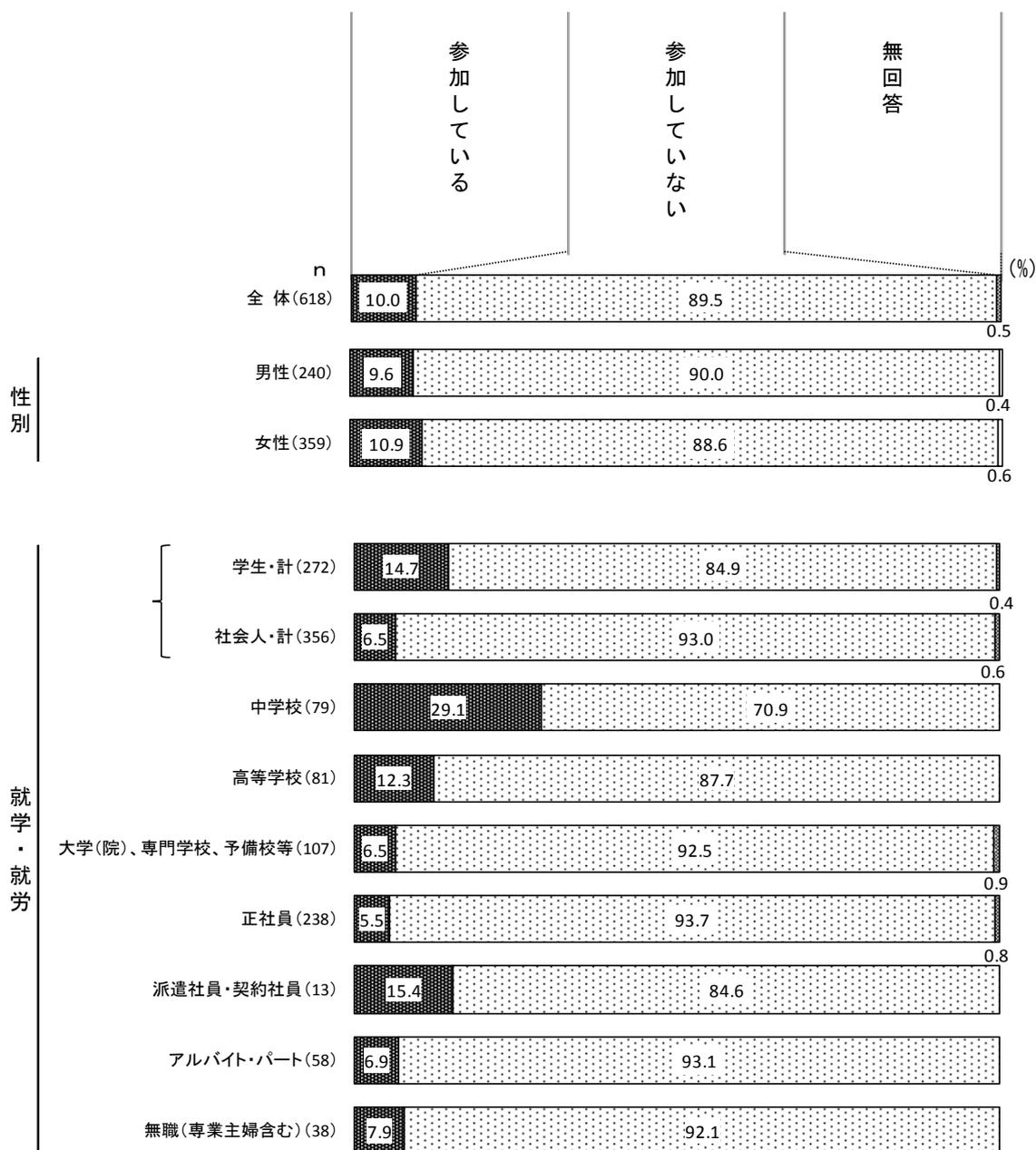
性別でみると、男女間で特に大きな違いはみられなかった。

就学・就労別でみると、【中学校】が29.1%と最も高くなっている。

○地域活動への参加（区別／居住年数別）

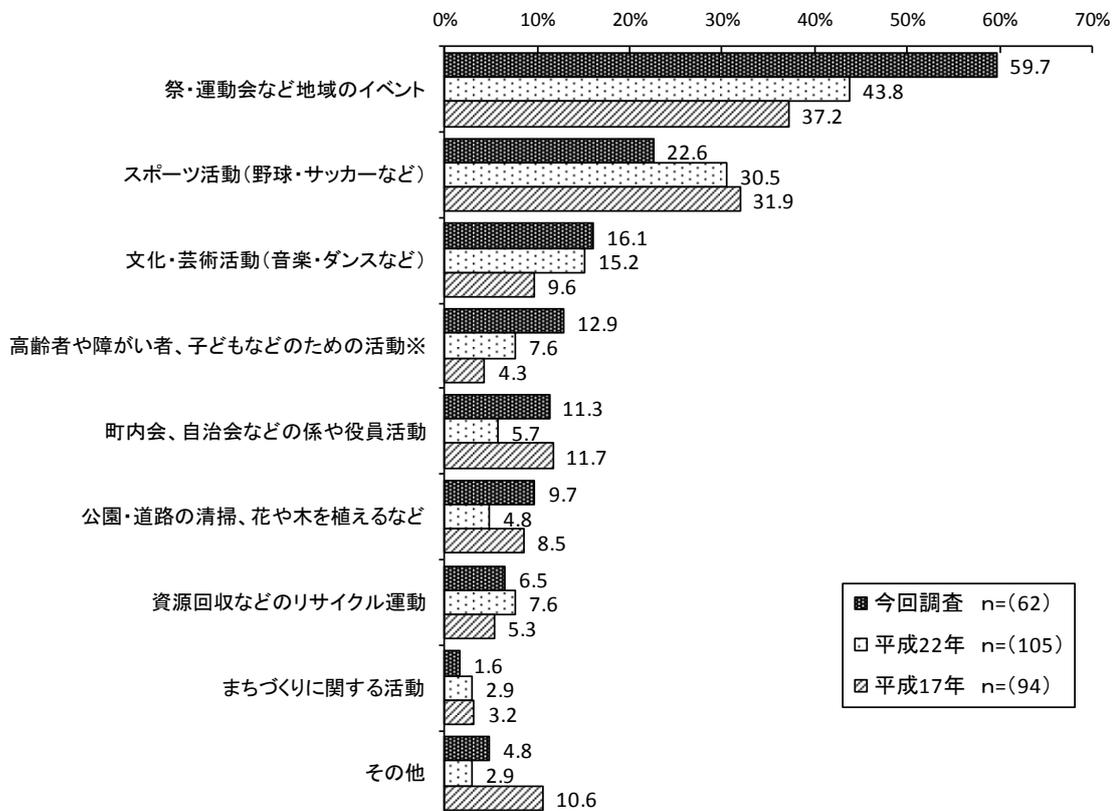


○地域活動への参加（性別／就学・就労別）



(2) 参加している地域活動

【問3で「参加している」と回答した方への質問】
 問3① その地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)



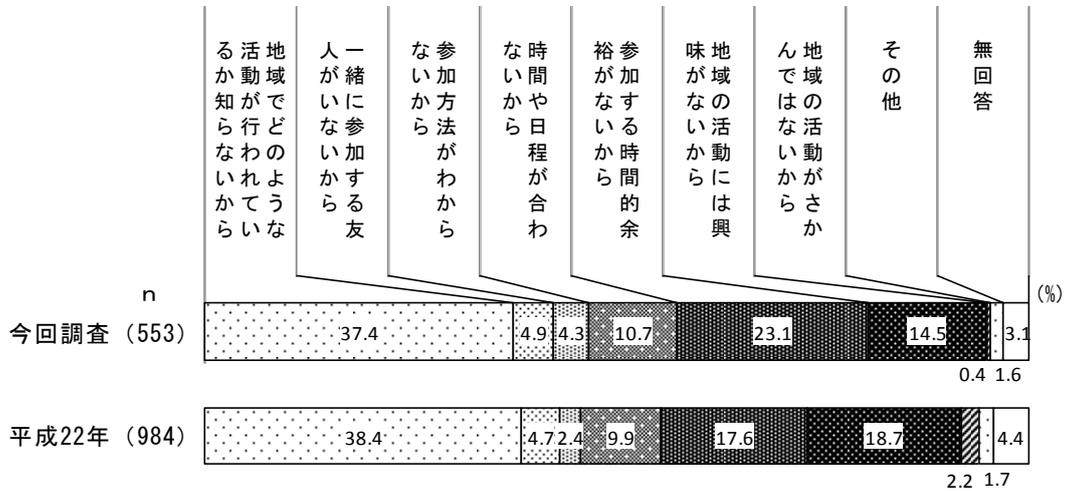
※の項目は、平成17年度調査では「高齢者や障がい者などのための活動」

参加している地域活動は、「祭・運動会など地域のイベント」の割合が59.7%と最も高く、次いで「スポーツ活動(野球・サッカーなど)」(22.6%)、「文化・芸術活動(音楽・ダンスなど)」(16.1%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「祭・運動会など地域のイベント」が15.9ポイント増加し、「スポーツ活動(野球・サッカーなど)」は7.9ポイント減少している。

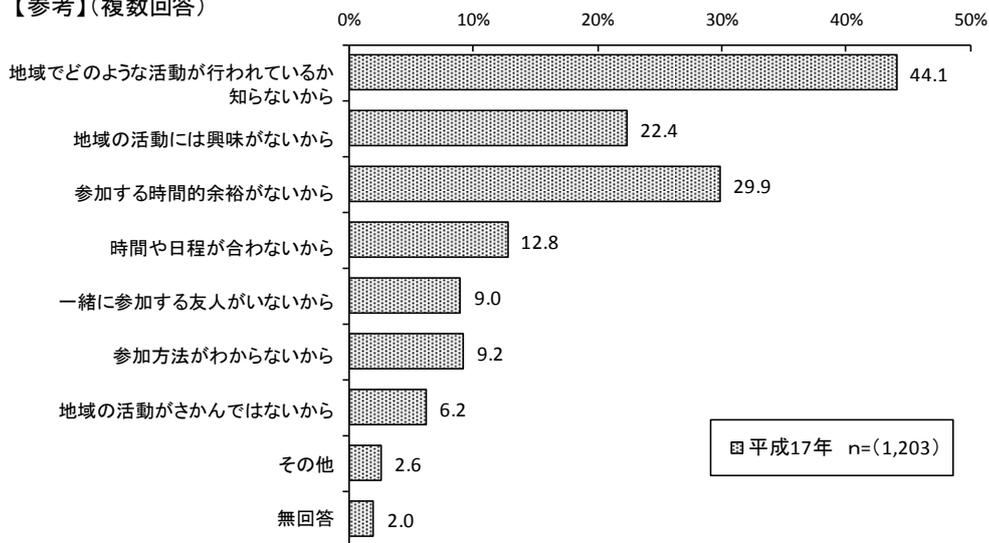
(3) 地域活動に参加していない理由

【問3で「参加していない」と回答した方への質問】

問3② 地域活動に参加していない主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)



【参考】(複数回答)



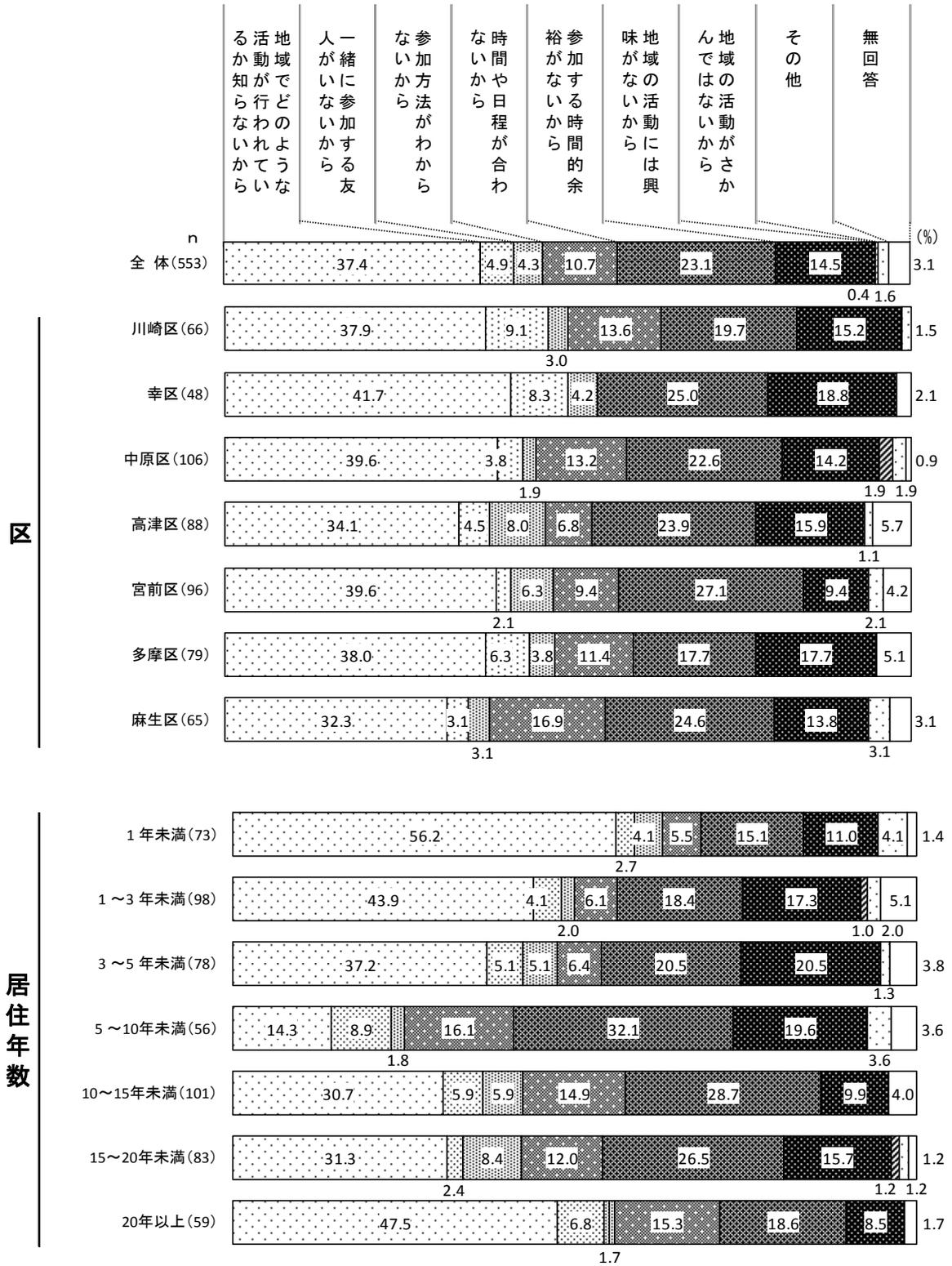
※平成17年度調査は複数回答のため参考値とする

地域活動に参加していない理由は、「地域でどのような活動が行われているか知らないから」の割合が37.4%と最も高く、次いで「参加する時間的余裕がないから」(23.1%)、「地域の活動には興味がないから」(14.5%)の順となっている。

区別で見ると、どの区も「地域でどのような活動が行われているか知らないから」の割合が30%以上と高い結果となっている。

居住年数別にみると、ほとんどの年数で「地域でどのような活動が行われているか知らないから」の割合が高いが、【5～10年未満】に限っては「参加する時間的余裕がないから」の割合が最も高くなっている。

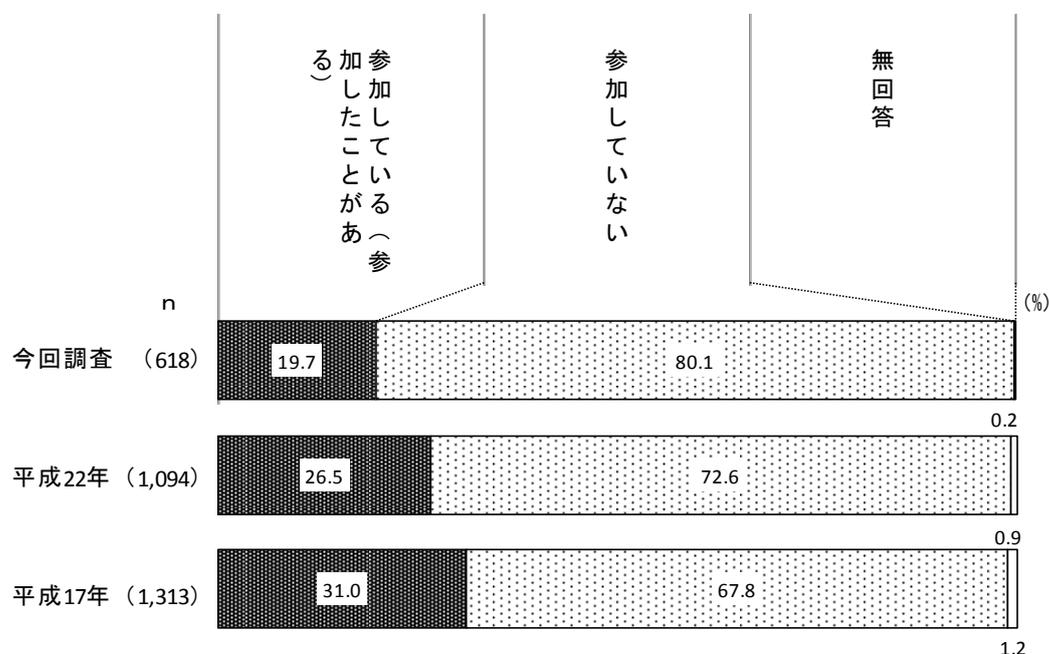
○地域活動に参加していない理由（区別／居住年数別）



3 ボランティア活動

(1) ボランティア活動への参加

問4 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。また、参加したことがありますか。(〇は1つだけ)



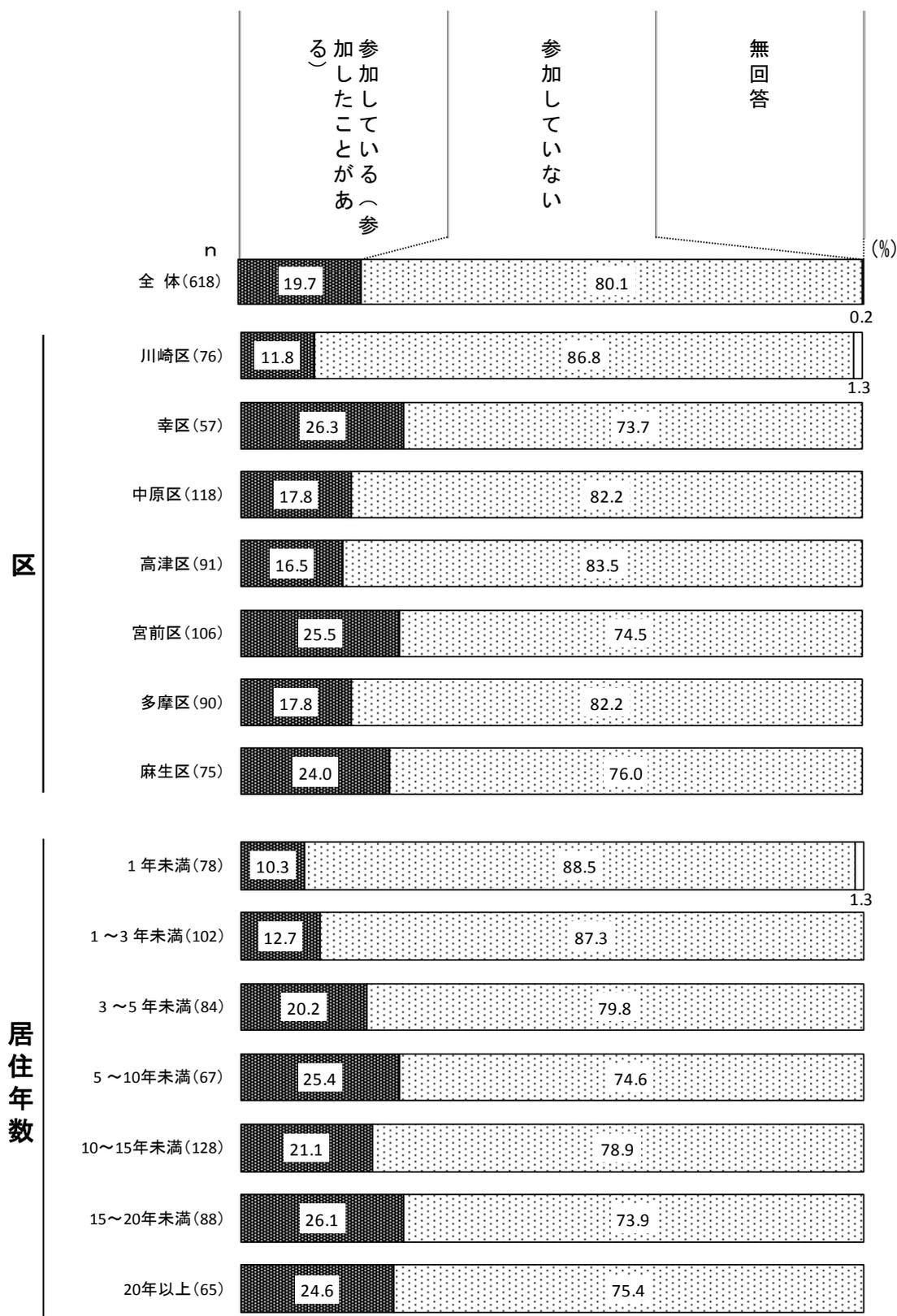
ボランティア活動への参加は、「参加している(参加したことがある)」の割合が、19.7%、「参加していない」が80.1%と、前項(1)「地域活動への参加」に関する質問と同様に「参加していない」割合が約8割を占めている。また、経年で比較すると、「参加している(参加したことがある)」割合が、毎回減少傾向にある。

区別でみると、【幸区】で「参加している(参加したことがある)」の割合が26.3%と最も高く、次いで、【宮前区】(25.5%)、【麻生区】(24.0%)の順となっており、【幸区】と【麻生区】では、前述の地域活動への参加においても上位であった。

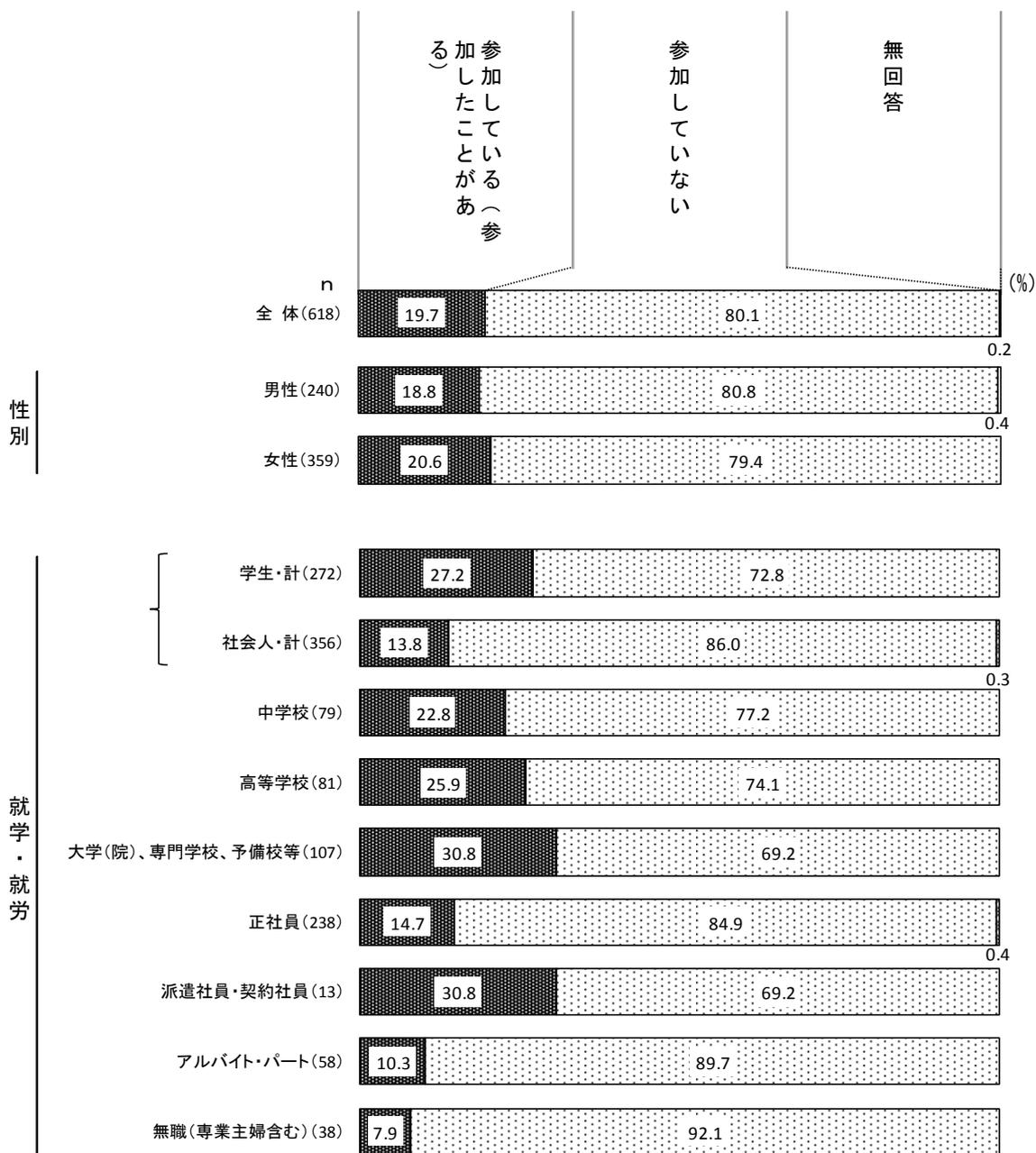
性別でみると、「参加している(参加したことがある)」割合は、男女ともに2割前後となっており、大きな差はみられない。

就学・就労別でみると、【学生・計】で「参加している(参加したことがある)」の割合が27.2%と高く、【社会人・計】では「参加している(参加したことがある)」割合は13.8%となっている。

○ボランティア活動への参加（区別／居住年数別）



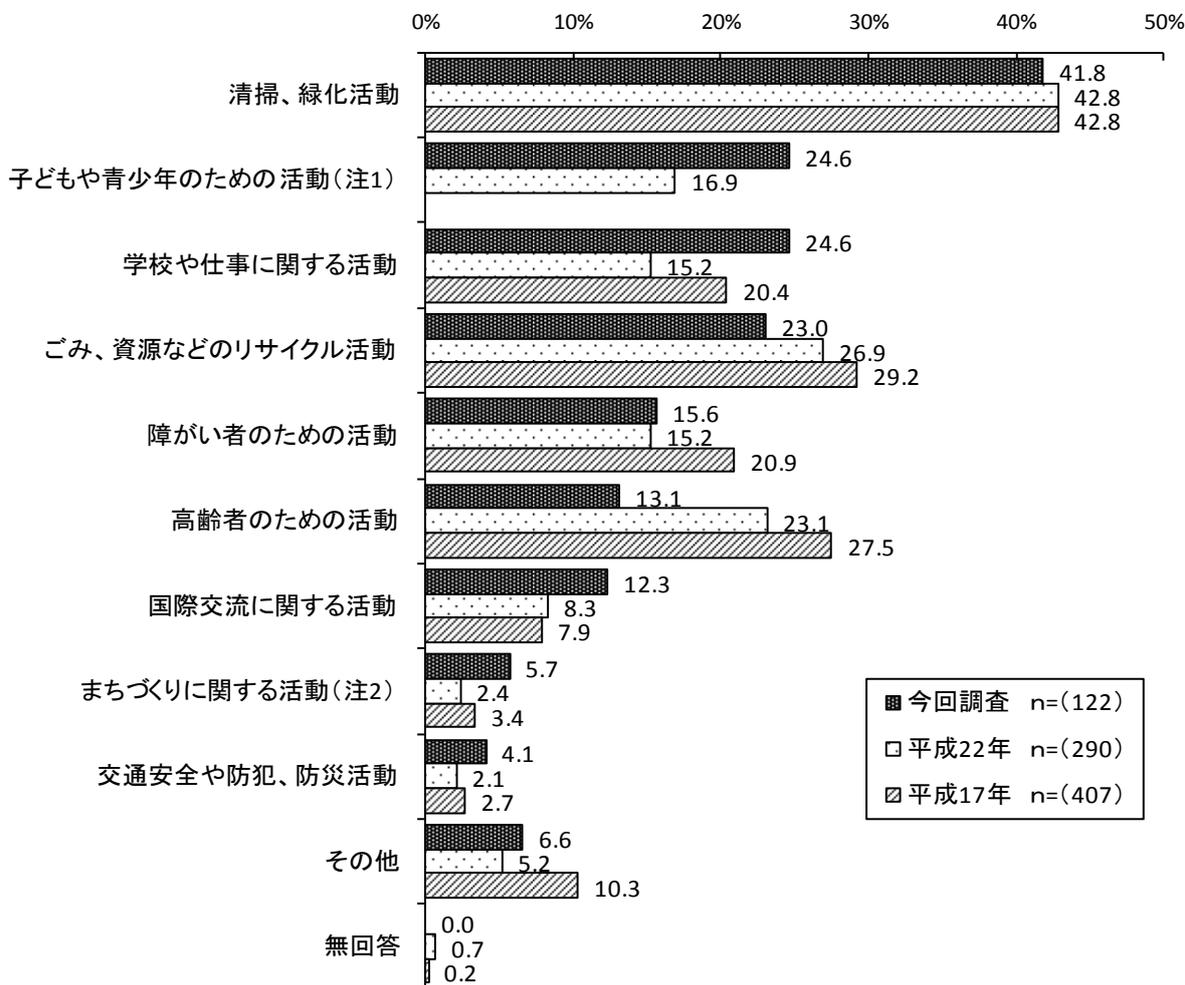
○ボランティア活動への参加（性別／就学・就労別）



(2) 参加しているボランティア活動

【問4で「参加している（参加したことがある）」と回答した方への質問】

問4① それはどのようなボランティア活動ですか。（〇はいくつでも）



(注1) の項目は、平成22年度調査から調査項目に加わったため、平成17年度調査は非調査

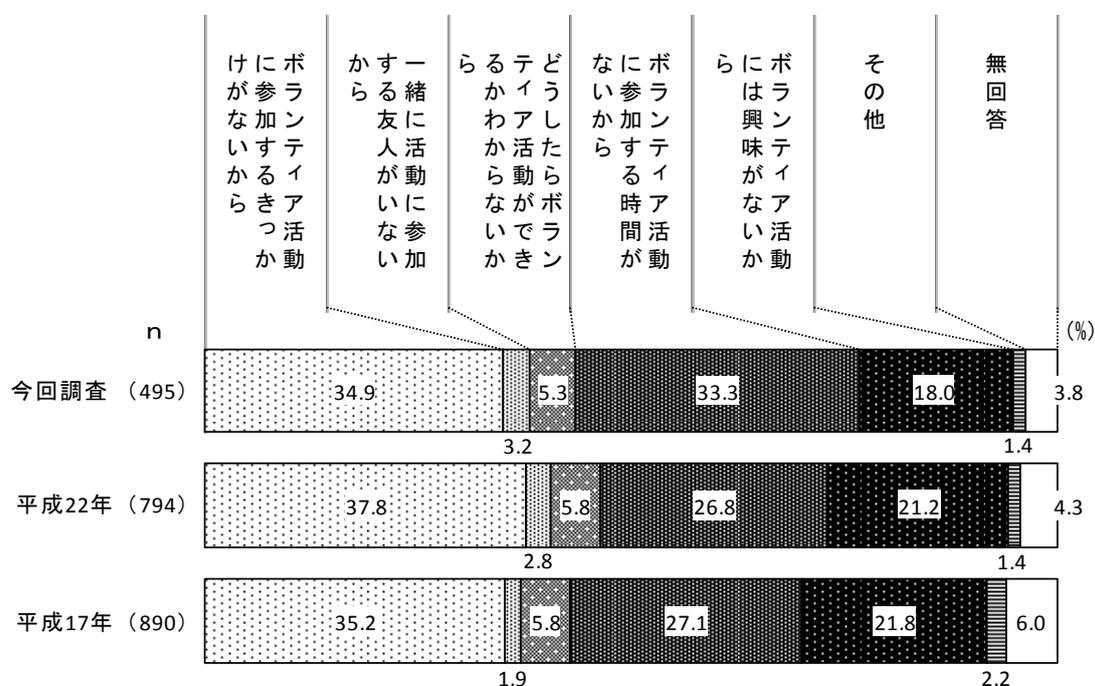
(注2) の項目は、平成22年度調査、平成17年度調査では「行政やまちづくりに関する活動」

参加しているボランティア活動は、「清掃、緑化活動」の割合が41.8%で最も高く、以下、「子どもや青少年のための活動」と「学校や仕事に関する活動」がともに24.6%、「ごみ、資源などのリサイクル活動」(23.0%)、「障がい者のための活動」(15.6%)、「高齢者のための活動」(13.1%)、「国際交流に関する活動」(12.3%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「学校や仕事に関する活動」が9.4ポイント、「子どもや青少年のための活動」が7.7ポイント増加し、一方、「高齢者のための活動」が10.0ポイント、「ごみ、資源などのリサイクル活動」が3.9ポイント減少している。

(3) ボランティア活動に参加していない理由

【問4で「参加していない」と回答した方への質問】

問4② ボランティア活動に参加していない主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)

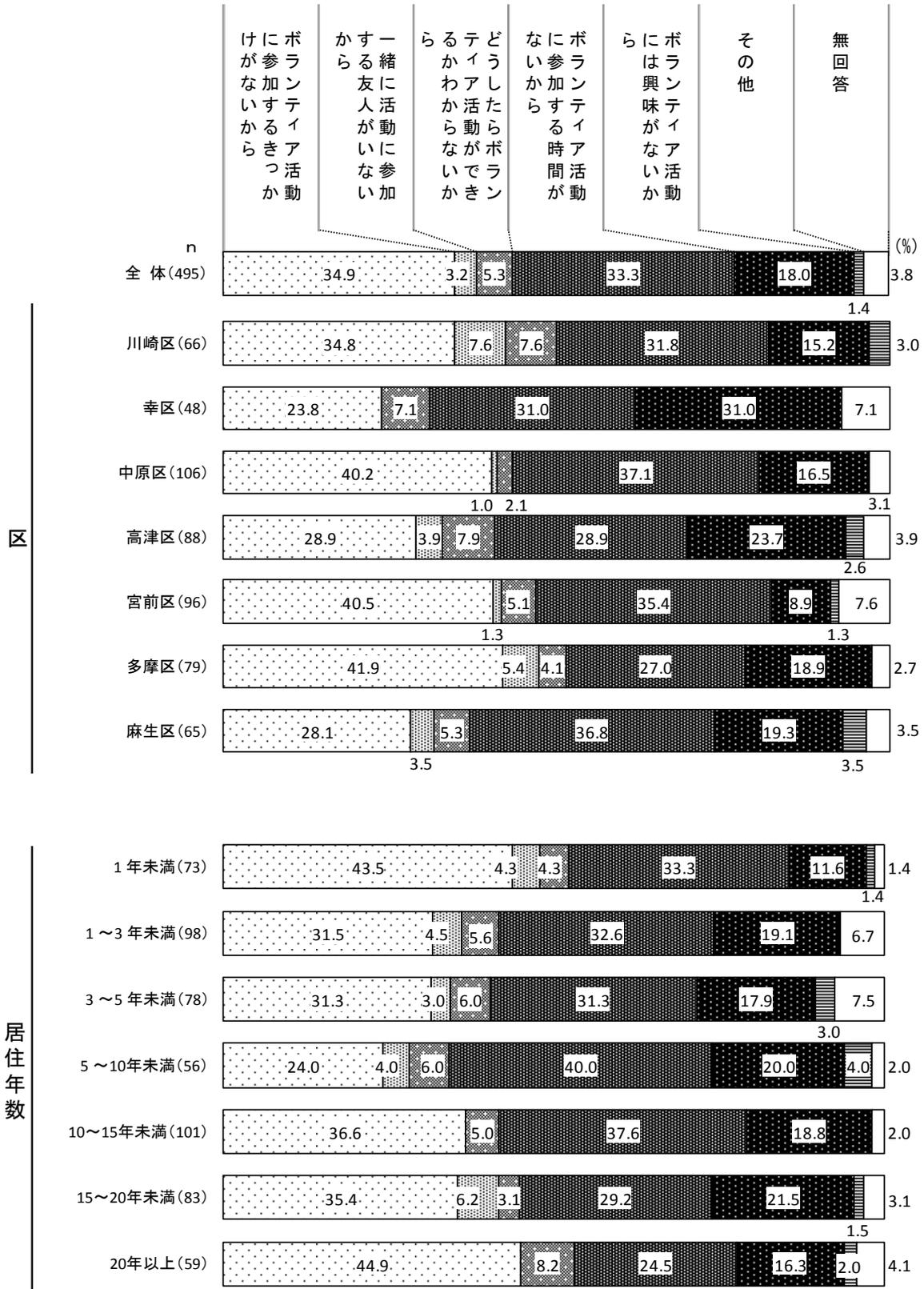


ボランティア活動に参加していない理由は、「ボランティア活動に参加するきっかけがないから」の割合が34.9%と最も高く、以下、「ボランティア活動に参加する時間がないから」(33.3%)、「ボランティア活動には興味がないから」(18.0%)、「どうしたらボランティア活動ができるかわからないから」(5.3%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「ボランティア活動に参加する時間がないから」が6.5ポイント増加している。

区別でみると、【川崎区】、【中原区】、【宮前区】、【多摩区】では「ボランティア活動に参加するきっかけがないから」の割合が最も高く、【麻生区】では「ボランティア活動に参加する時間がないから」の割合が最も高くなっている。また、【幸区】では「ボランティア活動には興味がないから」の割合が31.0%と、他の区と比べて高くなっている。

居住年数別でみると、【1年未満】と【15～20年未満】以上では「ボランティア活動に参加するきっかけがないから」の割合が最も高く、【1～3年未満】と【5～10年未満】【10～15年未満】では「ボランティア活動に参加する時間がないから」の割合が最も高くなっている。

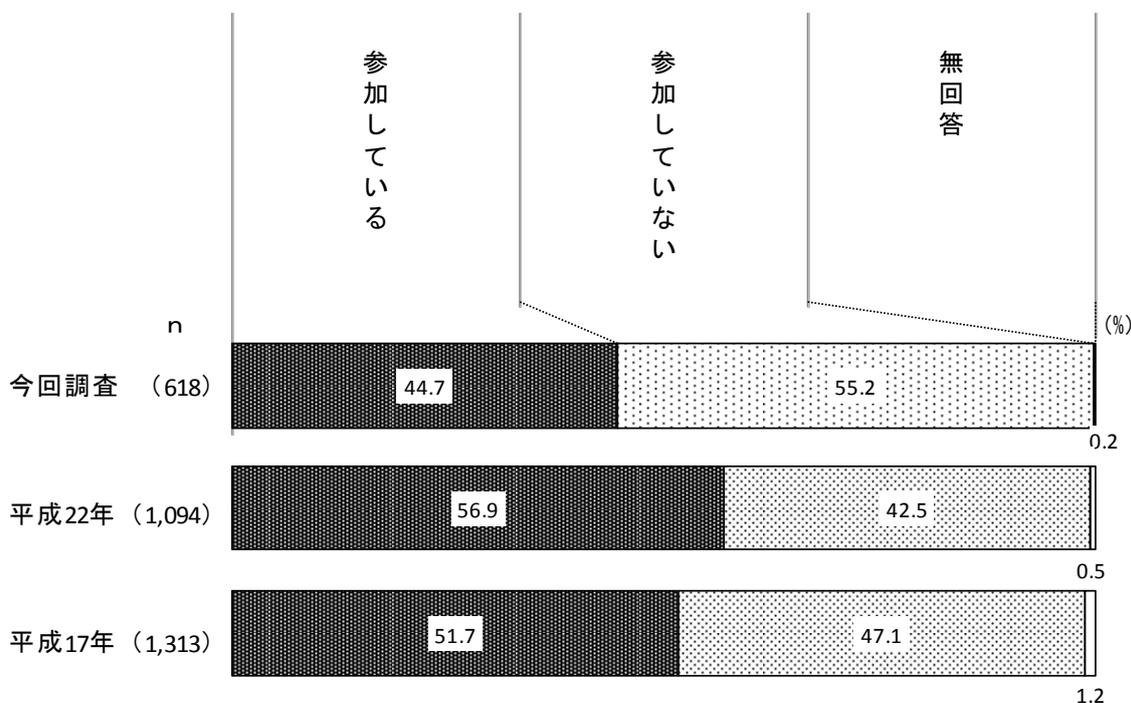
○ボランティア活動に参加していない理由（区別／居住年数別）



4 学校・職場でのグループ活動

(1) 部活動・団体活動への参加

問5 あなたは現在、学校や職場で何らかの部活動やグループ・団体活動に参加していますか。(〇は1つだけ)

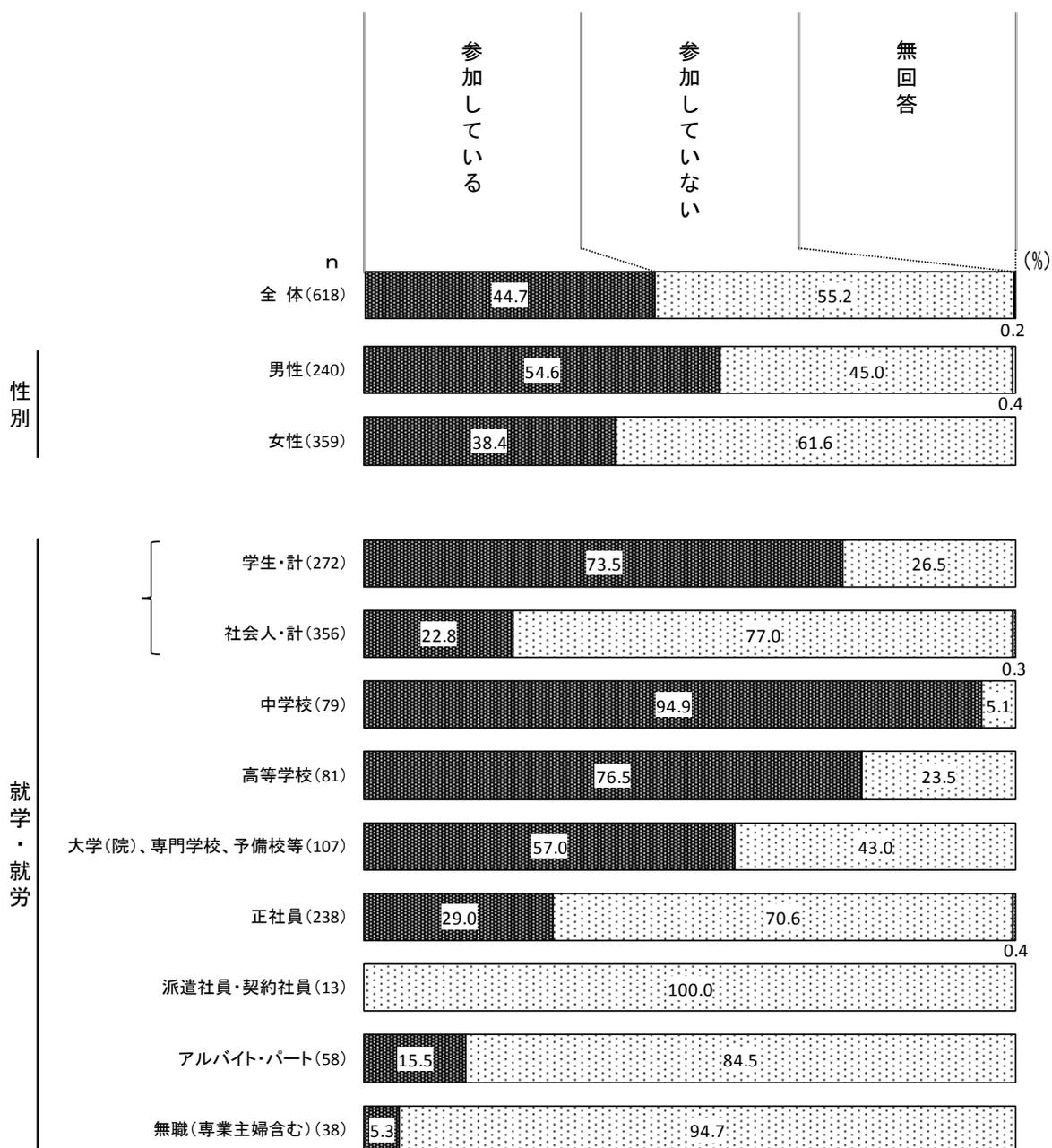


部活動・団体活動への参加は、「参加している」(44.7%)、「参加していない」は(55.2%)となっている。平成22年度調査と比較すると、「参加している」が12.2ポイント減少し、「参加していない」が12.7ポイント増加している。

性別で見ると、「参加している」割合は、【男性】で54.6%、【女性】で38.4%と、【女性】より【男性】のほうが16.2ポイント高くなっている。

就学・就労別で見ると、「参加している」割合は、【学生・計】で73.5%、【社会人・計】で22.8%と、【学生】の参加割合のほうが高くなっており、なかでも、【中学校】では94.9%に達している。

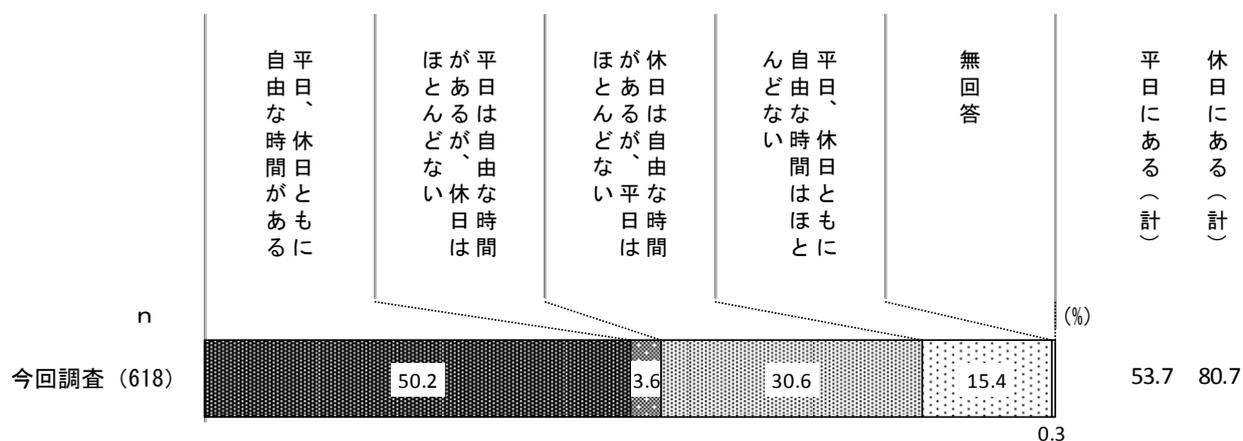
○部活動・団体活動への参加（区別／就学・就労別）



5 日常生活

(1) 自由な時間の有無

問6 あなたは、平日、休日に自由な時間がありますか。(〇は1つだけ)



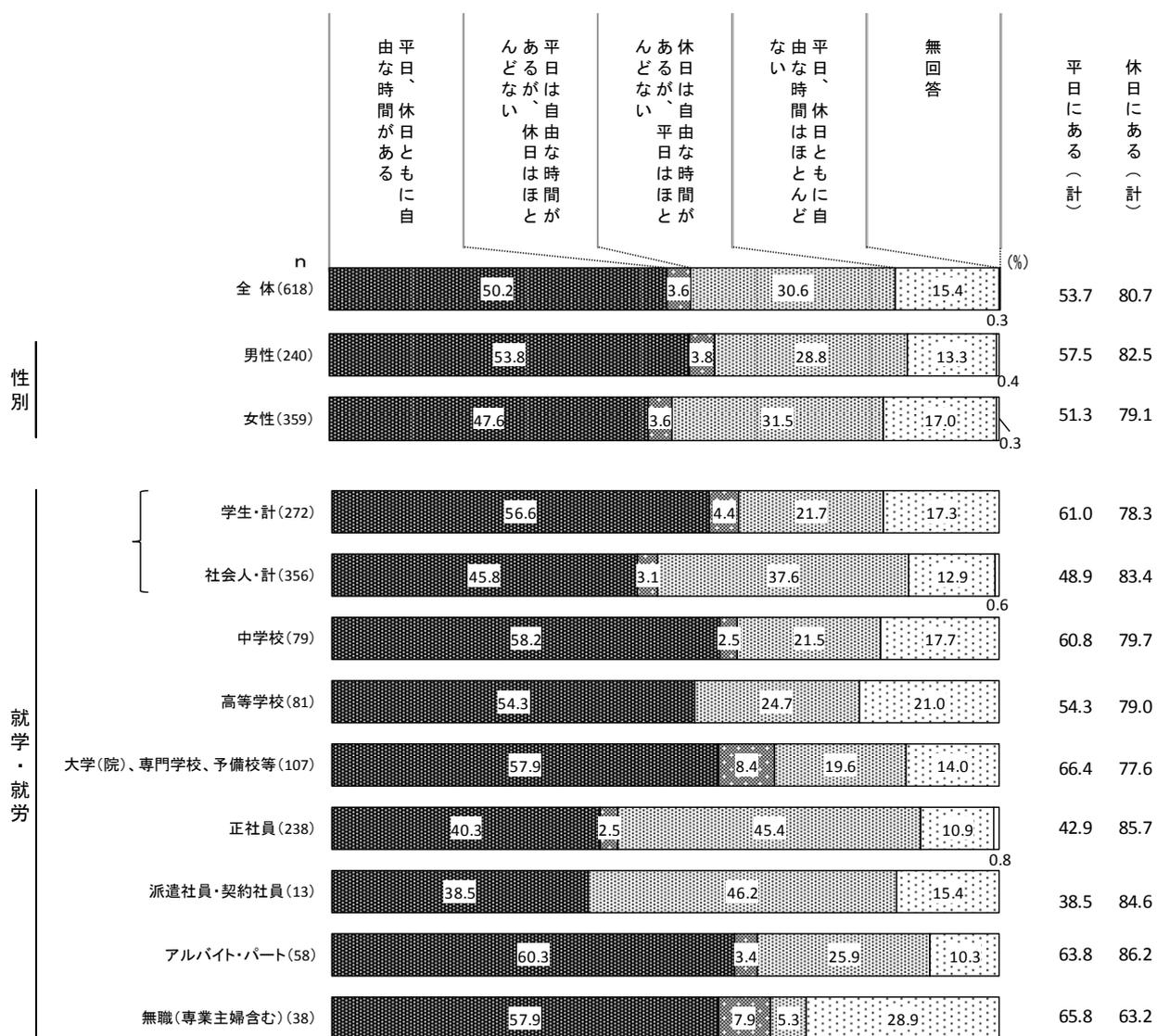
自由な時間の有無は、「平日、休日ともに自由な時間がある」(50.2%)、「休日は自由な時間があるが、平日はほとんどない」(30.6%)、「平日は自由な時間があるが、休日はほとんどない」(3.6%) となっており、『平日に自由な時間がある (計)』は53.7%、『休日には自由な時間がある (計)』は80.7%となっている。なお、「平日、休日ともに自由な時間はほとんどない」の割合は、15.4%となっている。

性別でみると、「平日、休日ともに自由な時間がある」割合は、【男性】で53.8%、【女性】で47.6%と、【男性】のほうが【女性】よりも6.2ポイント高くなっている。

就学・就労別でみると、「平日、休日ともに自由な時間がある」割合は、【大学(院)、専門学校、予備校等】(54.3%)、【アルバイト・パート】(60.3%)、【無職(専業主婦含む)】(57.9%)で高くなっている。なお、【無職(専業主婦含む)】では、「平日、休日ともに自由な時間はほとんどない」の割合も28.9%と、他の属性と比べて高くなっている。また、【正社員】では「休日は自由な時間があるが、平日はほとんどない」の割合が45.4%と、他の属性と比べて高くなっている。

第2部 調査結果の詳細

○自由な時間の有無（性別／就学・就労別）

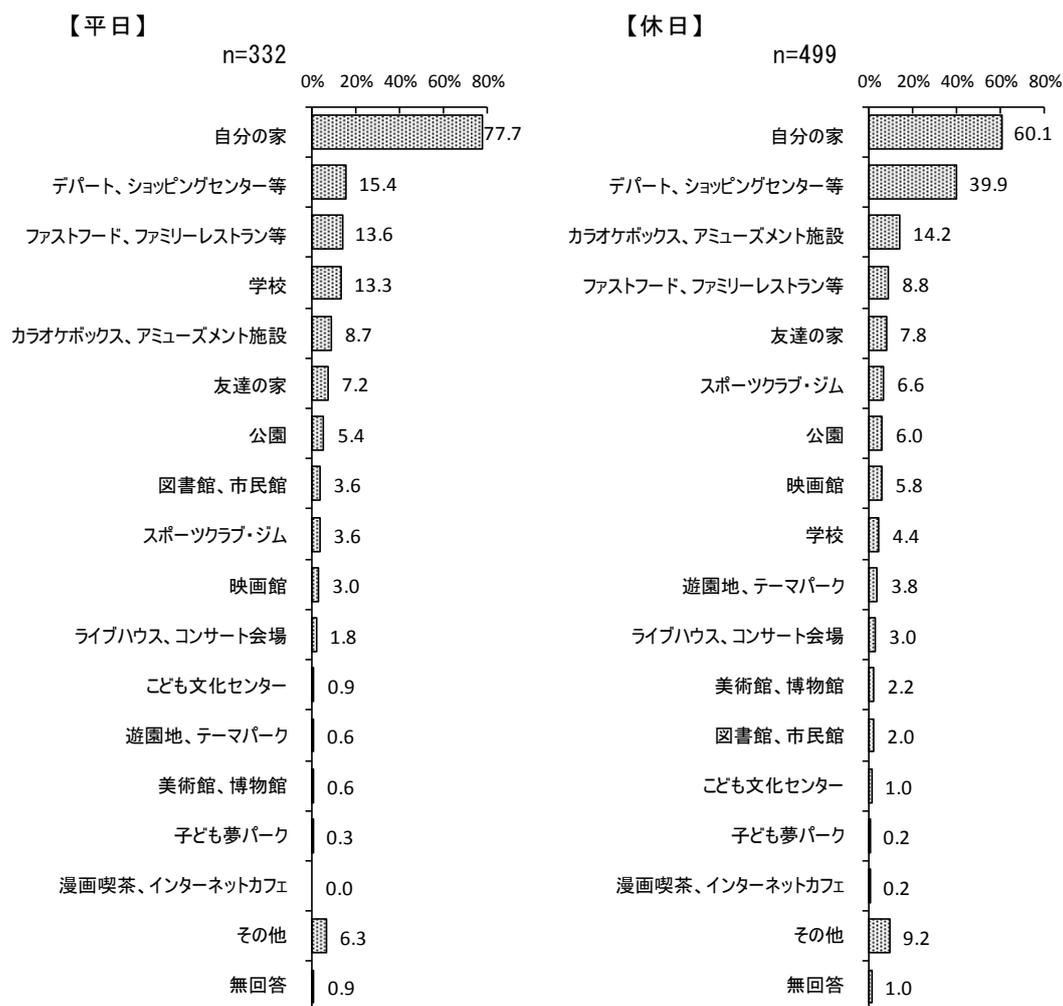


(2) 自由な時間の過ごし方

【問6で「自由な時間がある」と回答した方への質問】

問7 あなたは自由な時間をどこで（A）、誰と（B）、どのように（C）過ごすことが多いですか。また、そこに求めるもの（D）は何ですか。記入例を参考にして、①平日、②休日それぞれ2つまで挙げ、それぞれ番号を記入してください

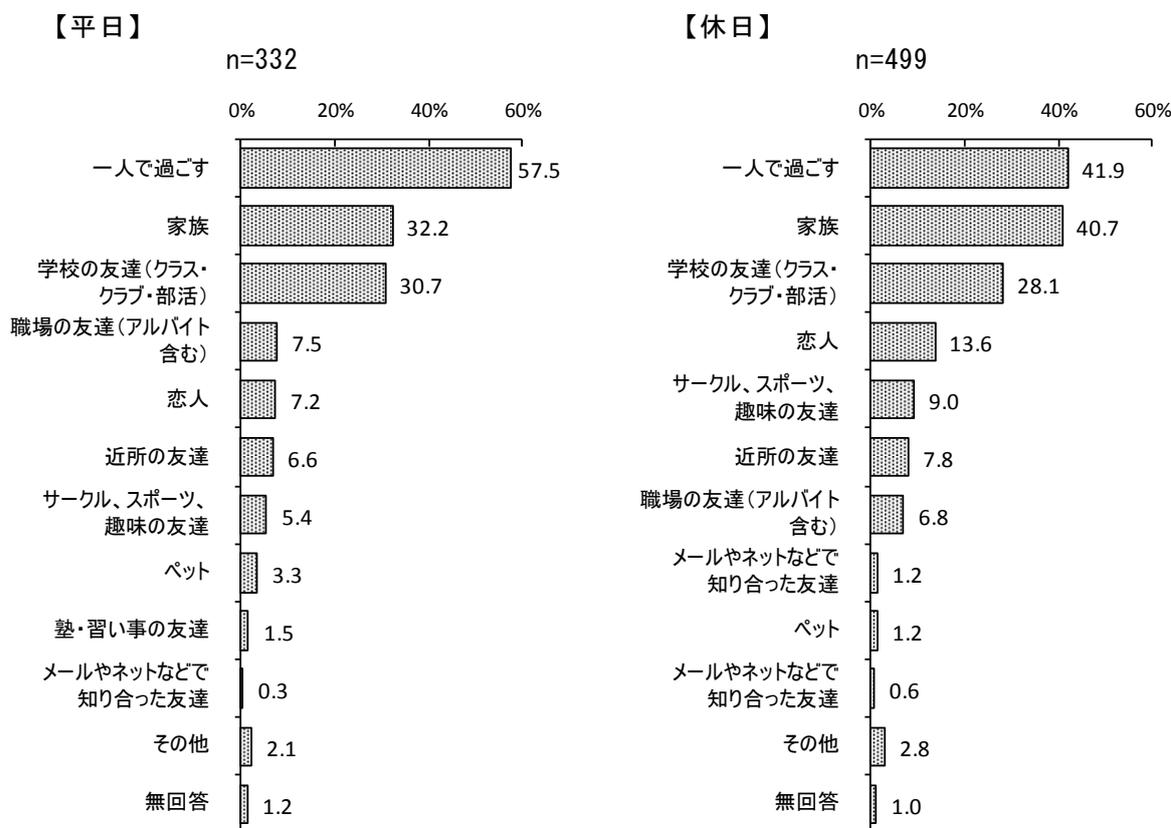
○自由な時間を過ごす場所（A）



自由な時間を過ごす場所（平日）は、「自分の家」の割合が77.7%で最も高く、以下、「デパート、ショッピングセンター等」（15.4%）、「ファストフード、ファミリーレストラン等」（13.6%）、「学校」（13.3%）の順となっている。

自由な時間を過ごす場所（休日）は、「自分の家」の割合が60.1%で最も高く、以下、「デパート、ショッピングセンター等」（39.9%）、「カラオケボックス、アミューズメント施設」（14.2%）、「ファストフード、ファミリーレストラン等」（8.8%）の順となっている。

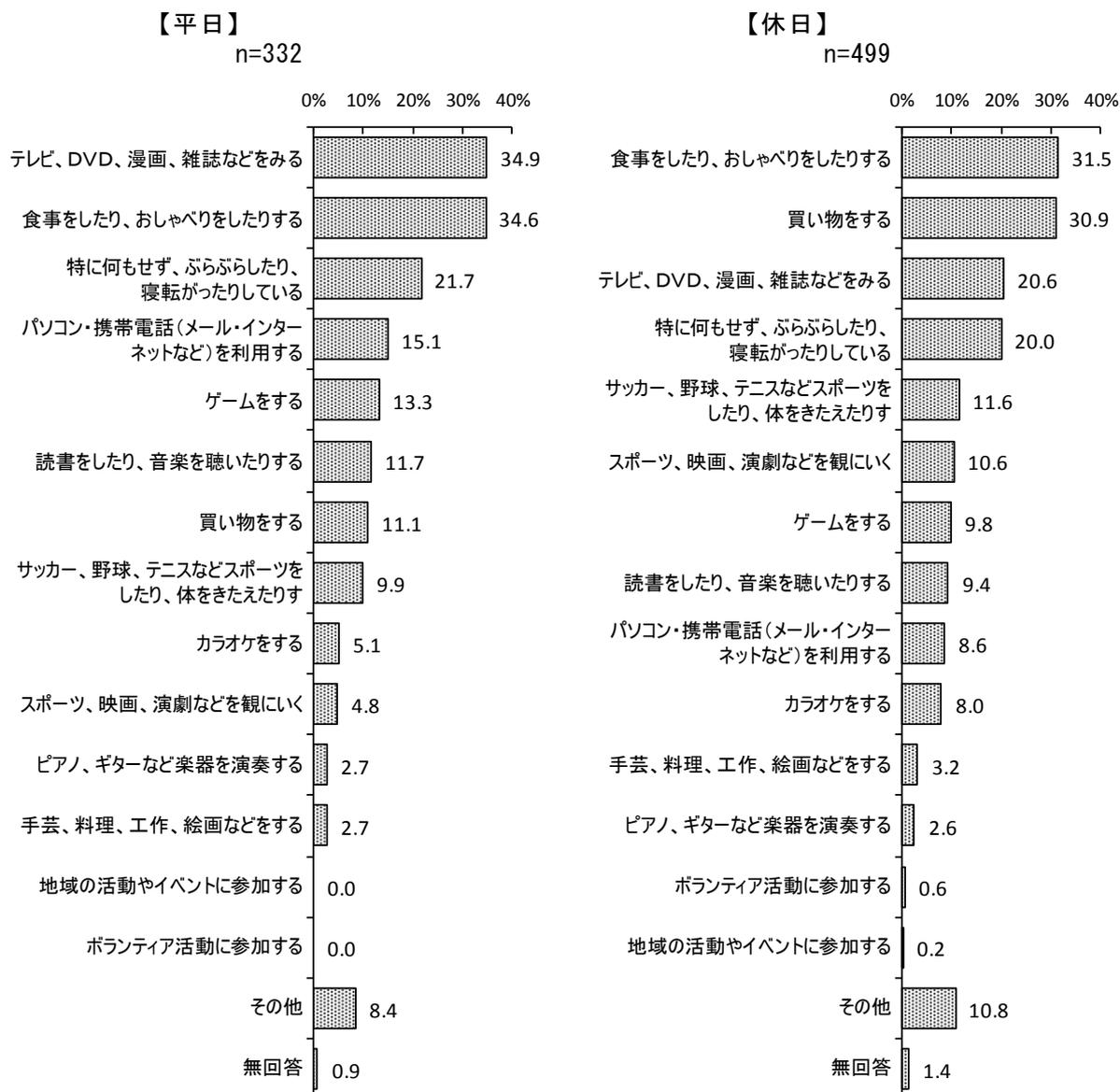
○自由な時間を過ごす相手（B）



自由な時間を過ごす相手（平日）は、「一人で過ごす」の割合が57.5%で最も高く、以下、「家族」（32.2%）、「学校の友達（クラス・クラブ・部活）」（30.7%）、「職場の友達（アルバイト含む）」（7.5%）の順となっている。

自由な時間を過ごす相手（休日）は、「一人で過ごす」の割合が41.9%で最も高く、以下、「家族」（40.7%）、「学校の友達（クラス・クラブ・部活）」（28.1%）、「恋人」（13.6%）の順となっている。

○自由な時間の過ごし方（c）



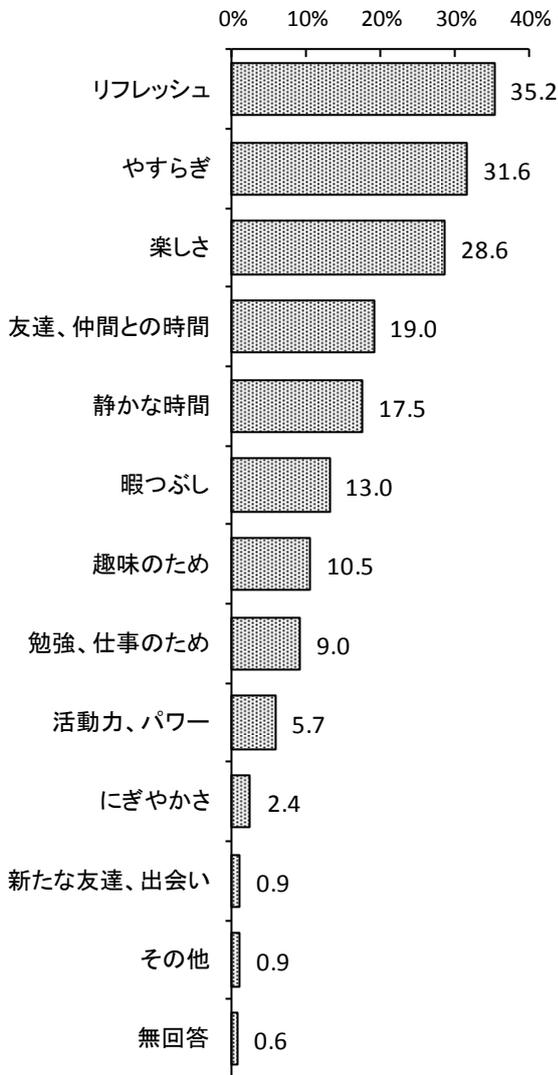
自由な時間の過ごし方（平日）は、「テレビ、DVD、漫画、雑誌などをみる」の割合が34.9%で最も高く、以下、「食事をしたり、おしゃべりをしたりする」（34.6%）、「特に何もせず、ぶらぶらしたり、寝転がったりしている」（21.7%）、「パソコン・携帯電話（メール・インターネットなど）を利用する」（15.1%）、「ゲームをする」（13.3%）の順となっている。

自由な時間の過ごし方（休日）は、「食事をしたり、おしゃべりをしたりする」の割合が31.5%で最も高く、以下、「買い物をする」（30.9%）、「テレビ、DVD、漫画、雑誌などをみる」（20.6%）、「特に何もせず、ぶらぶらしたり、寝転がったりしている」（20.0%）、「サッカー、野球、テニスなどスポーツをしたり、体をきたえたりする」（11.6%）の順となっている。

○自由な時間に求めるもの（D）

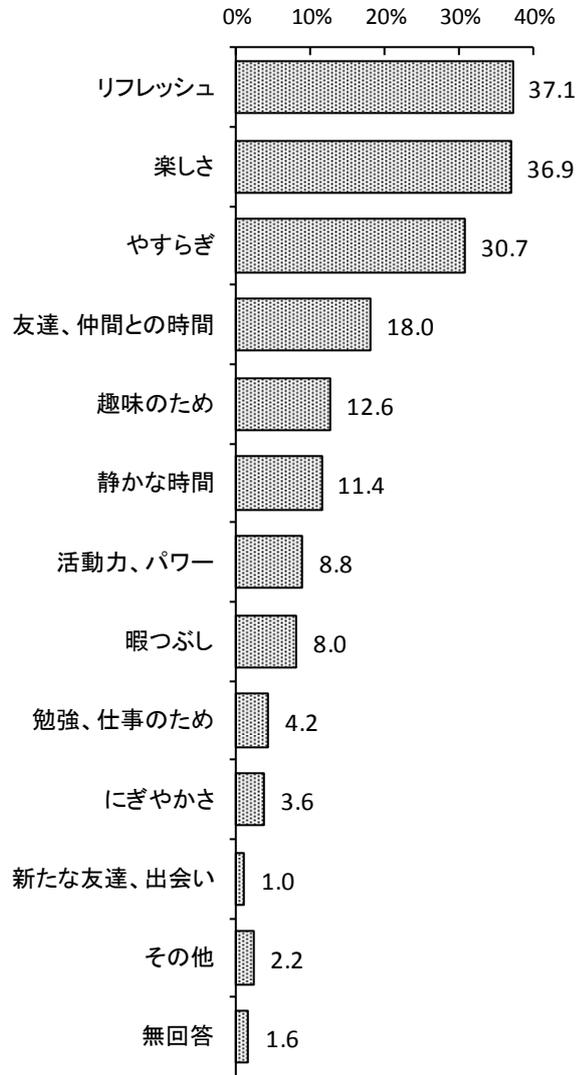
【平日】

n=332



【休日】

n=499



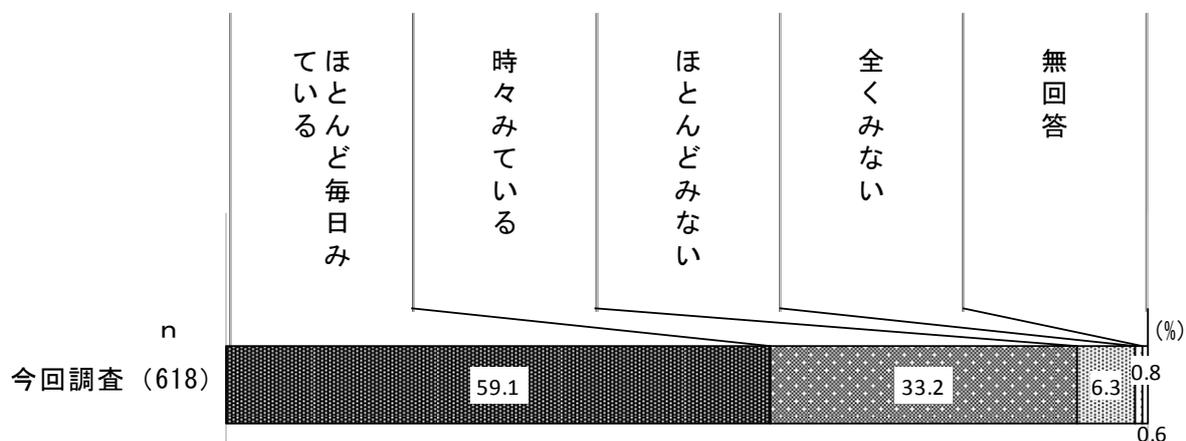
自由な時間に求めるもの（平日）は、「リフレッシュ」の割合が35.2%で最も高く、以下、「やすらぎ」（31.6%）、「楽しさ」（28.6%）、「友達、仲間との時間」（19.0%）、「静かな時間」（17.5%）の順となっている。

自由な時間に求めるもの（休日）は、「リフレッシュ」の割合が37.1%で最も高く、以下、「楽しさ」（36.9%）、「やすらぎ」（30.7%）、「友達、仲間との時間」（18.0%）、「趣味のため」（12.6%）の順となっている。

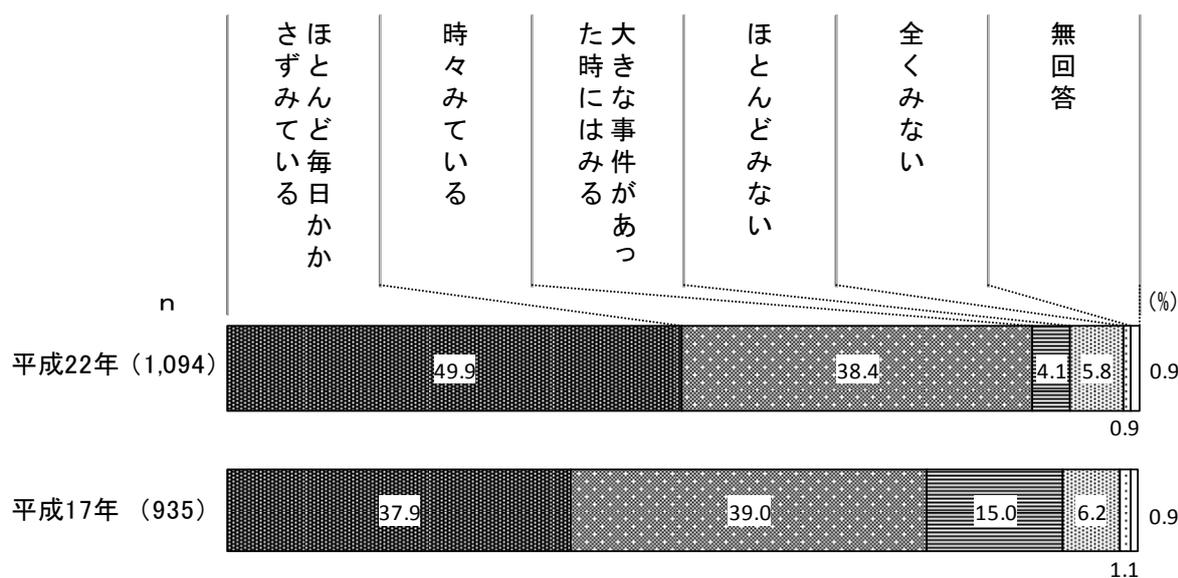
6 ニュースへの関心

(1) ニュースをみる頻度

問8 あなたは、新聞やテレビ、パソコンやスマートフォン（アプリ含む）などでニュースをみますか。（〇は1つだけ）



【参考】



※平成22年度調査、平成17年度調査では、「大きな事件があった時にはみる」を聴取

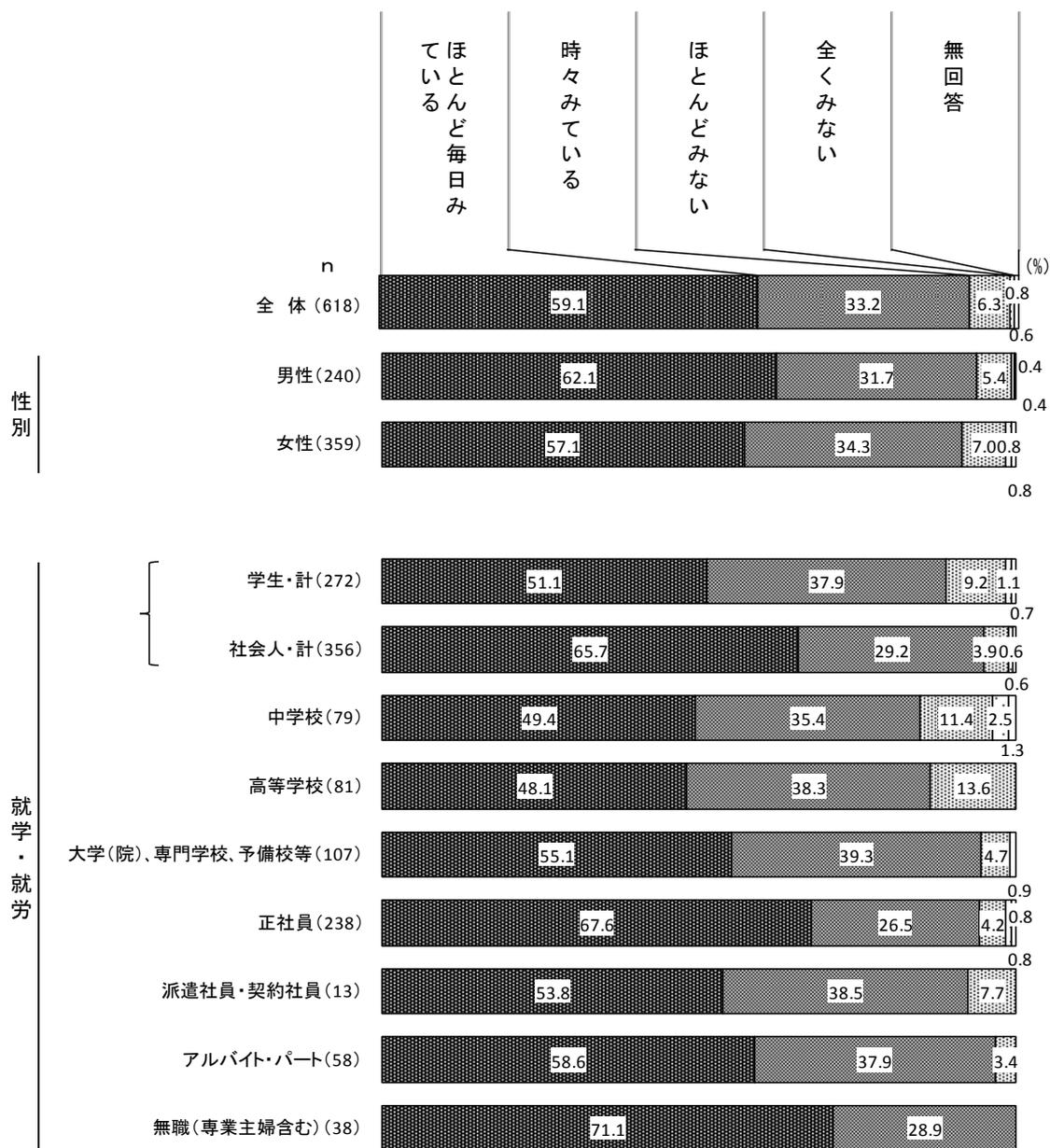
ニュースをみる頻度は、「ほとんど毎日みている」の割合が59.1%で最も高く、以下、「時々みている」(33.2%)、「ほとんどみない」(6.3%)、「全くみない」(0.8%)の順となっている。

性別でみると、「ほとんど毎日みている」割合は、【男性】のほうが62.1%と高くなっている。

就学・就労別でみると、「ほとんど毎日みている」割合は、【正社員】【無職（専業主婦含む）】で7割前後と、他と比べて高くなっている。

第2部 調査結果の詳細

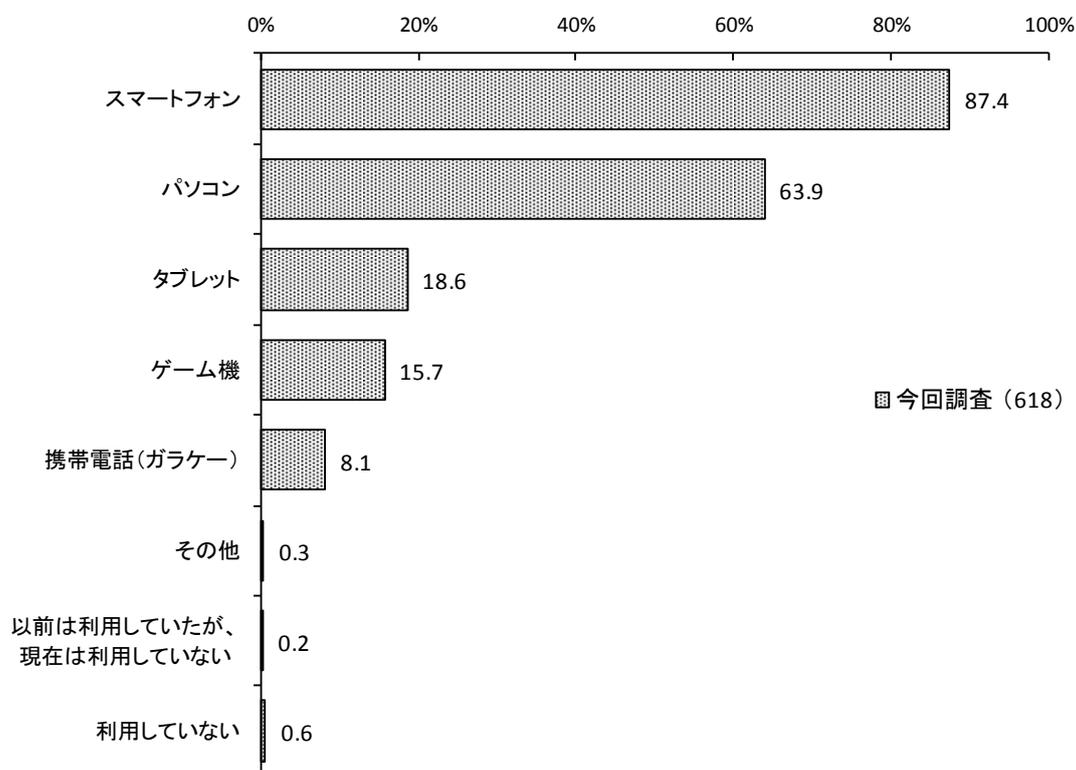
○ニュースをみる頻度（性別／就学・就労別）



7 携帯電話・パソコンなどの利用状況

(1) インターネット接続機器の利用状況

問9 あなたは、どのインターネット接続機器を利用していますか。(〇はいくつでも)

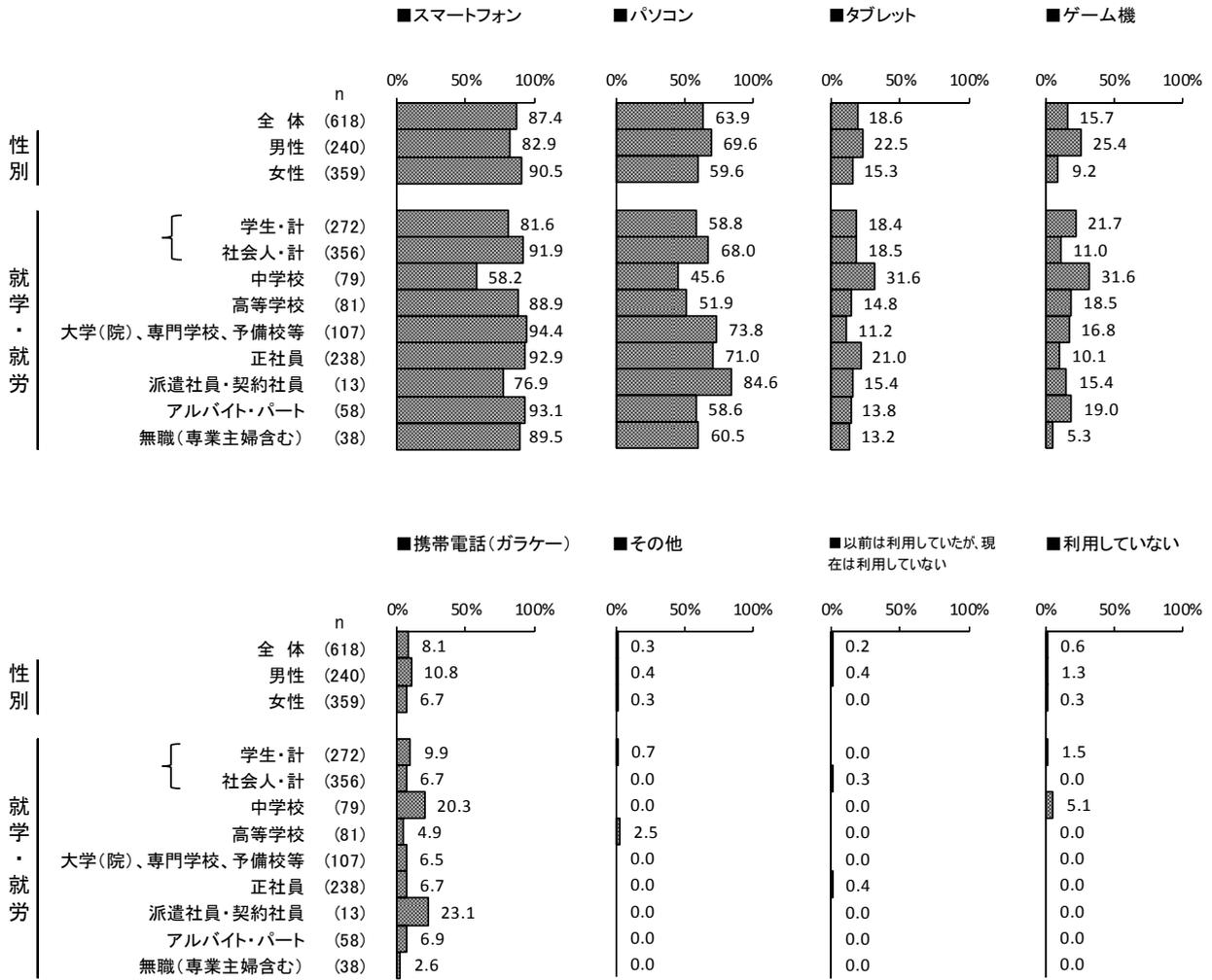


インターネット接続機器の利用状況は、「スマートフォン」の割合が87.4%で最も高く、以下、「パソコン」(63.9%)、「タブレット」(18.6%)、「ゲーム機」(15.7%)、「携帯電話(ガラケー)」(8.1%)の順となっている。

性別で見ると、【女性】は「スマートフォン」の割合が高く、【男性】は「パソコン」、「タブレット」、「ゲーム機」の割合が高くなっている。

就学・就労別で見ると、【中学校】、【派遣社員・契約社員】以外の属性では「スマートフォン」の割合が高く、【中学校】は「タブレット」、「ゲーム機」の割合が、【派遣社員・契約社員】は「パソコン」「携帯電話(ガラケー)」の割合が高くなっている。

○インターネット接続機器の利用状況（性別／就学・就労別）

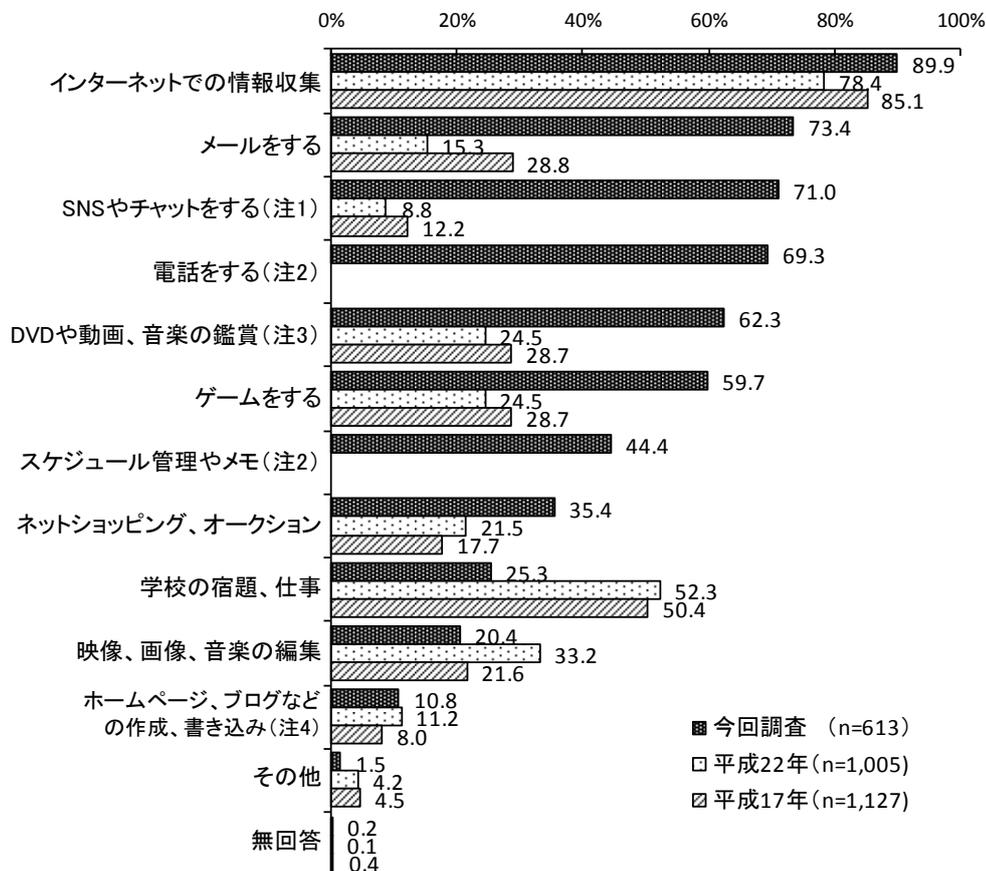


(2) パソコン・携帯電話などの利用目的

【問9で「インターネット接続機器を利用している」と回答した方への質問】

問9① あなたは、パソコン・携帯電話などをどのようなことに利用していますか。

(○はいくつでも)



(注1) の項目は、平成22年度調査、平成17年度調査では「チャットをする」

(注2) の項目は、今回調査から調査項目に加わったため、平成22年度調査、平成17年度調査は非調査

(注3) の項目は、平成22年度調査、平成17年度調査では「テレビ、DVDの鑑賞」

(注4) の項目は、平成22年度調査では「ホームページの作成、書き込み」、平成17年度調査では「ホームページの作成」

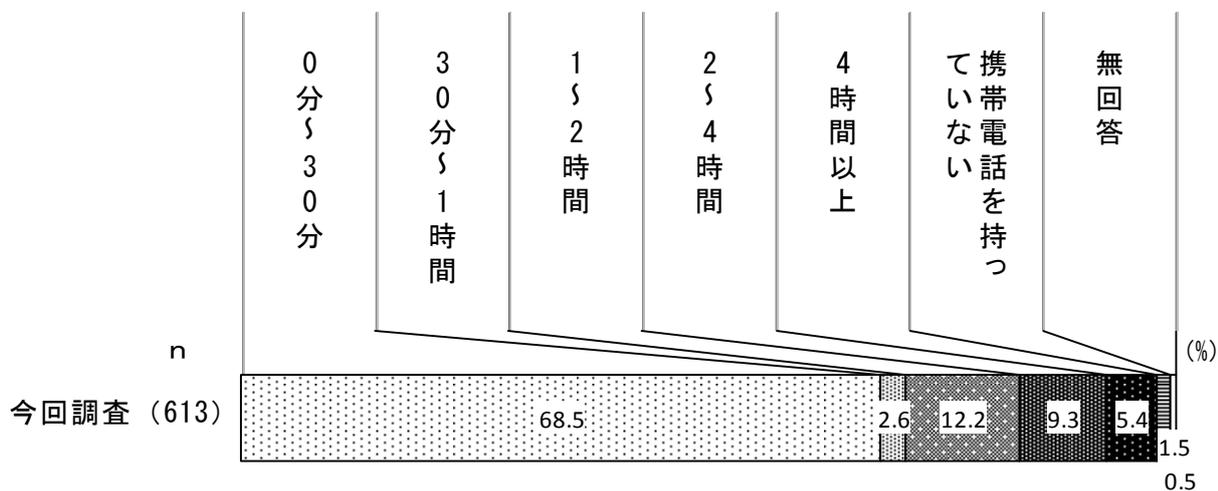
※平成22年度調査、平成17年度調査では「携帯電話など」は含まず「パソコン」の利用目的に限定している

パソコン・携帯電話の利用目的は、「インターネットでの情報収集」の割合が89.9%で最も高く、以下、「メールをする」(73.4%)、「SNSやチャットをする」(71.0%)、「電話をする」(69.3%)、「DVDや動画、音楽の鑑賞」(62.3%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「SNSやチャットをする」が62.2ポイント、「メールをする」が58.1ポイント、「DVDや動画、音楽の鑑賞」が37.8ポイント、「ゲームをする」が35.2ポイント増加している。

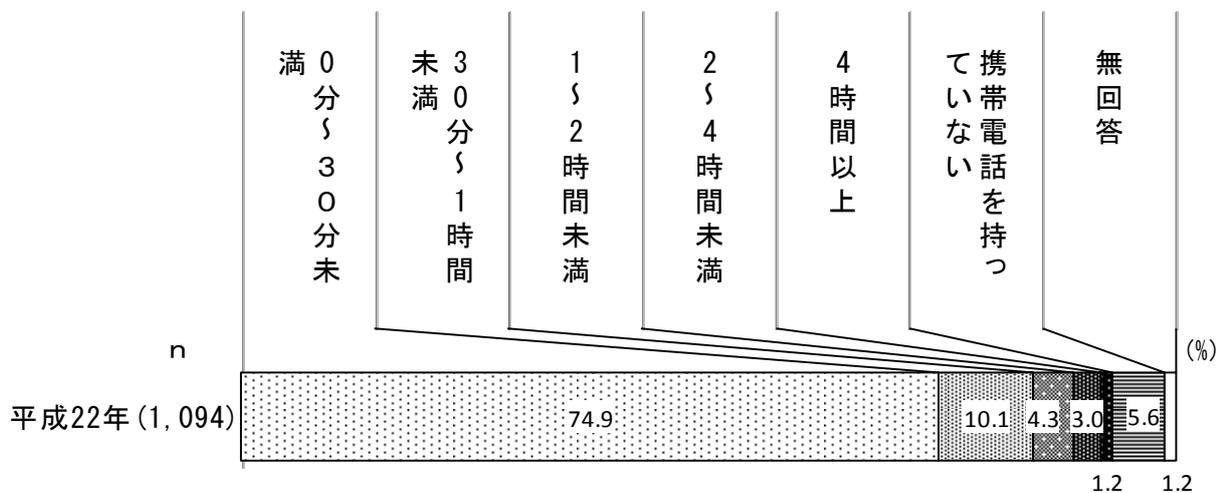
(3) 携帯電話での1日あたりの通話時間

【問9で「インターネット接続機器を利用している」と回答した方への質問】

問9② あなたは1日に何時間くらい携帯電話（スマートフォンを含む）で話しますか。
 (〇は1つだけ)



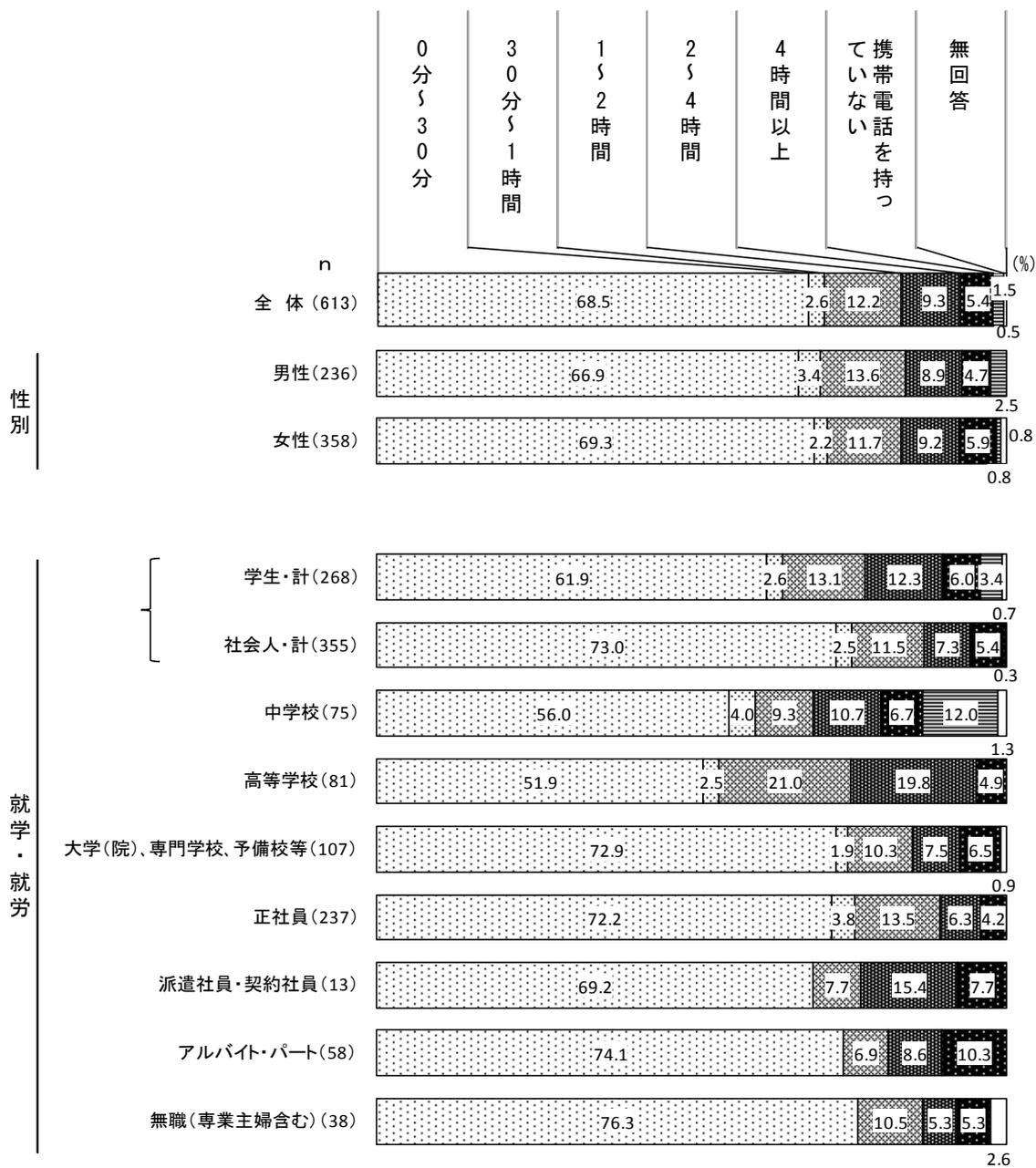
【参考】



※平成22年度調査は、全員に聴取しているため参考値とする

1日の携帯電話での通話時間は、「0分～30分」の割合が68.5%で最も高く、以下、「1～2時間」(12.2%)、「2～4時間」(9.3%)、「4時間以上」(5.4%)の順となっている。性別でみると、性差による大きな差は特にみられない。就学・就労別でみると、【中学校】、【高等学校】で通話時間が長い傾向にある。

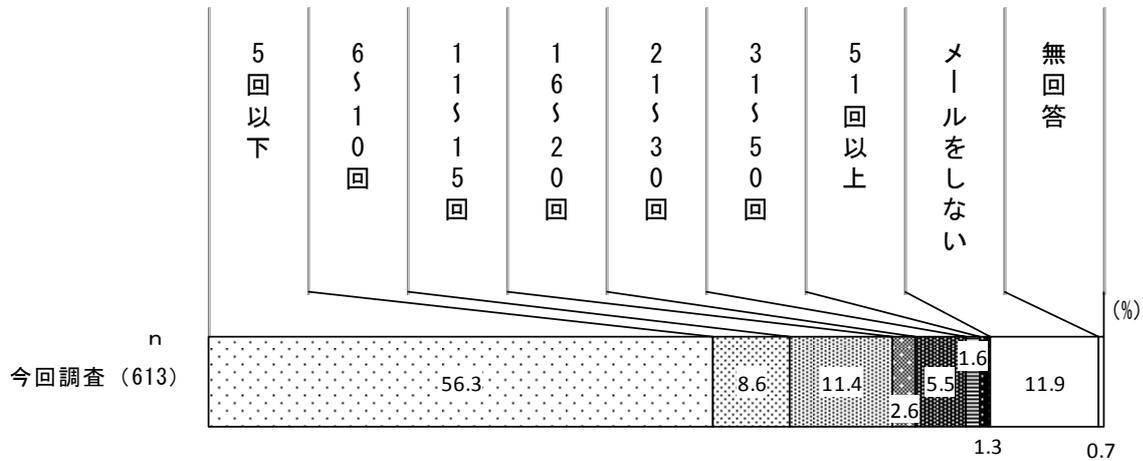
○携帯電話での1日あたりの通話時間（性別／就学・就労別）



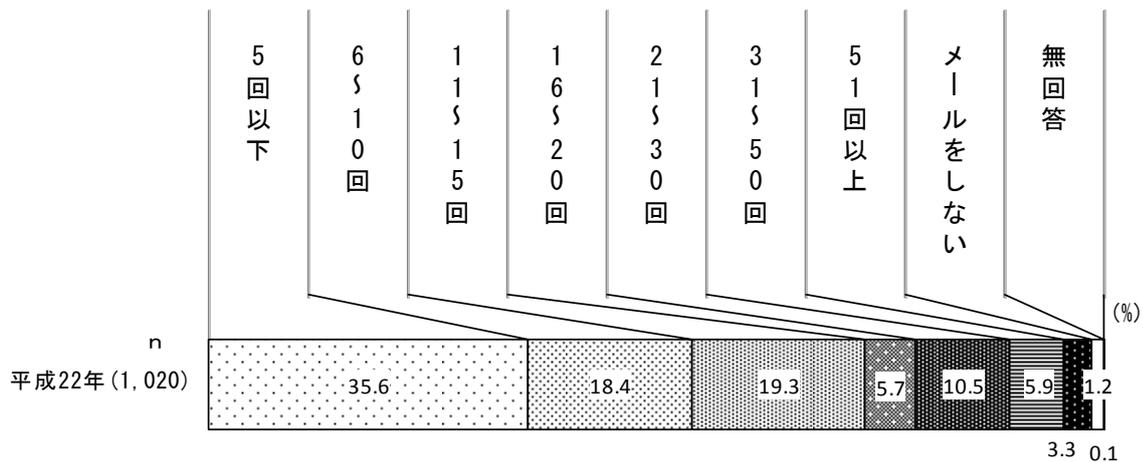
(4) 1日あたりのメール送信回数

【問9で「インターネット接続機器を利用している」と回答した方への質問】

問9③ あなたは1日に何回くらいメールを送りますか。(〇は1つだけ)



【参考】



※平成22年度調査は、携帯電話の所有者に聴取しているため参考値とする

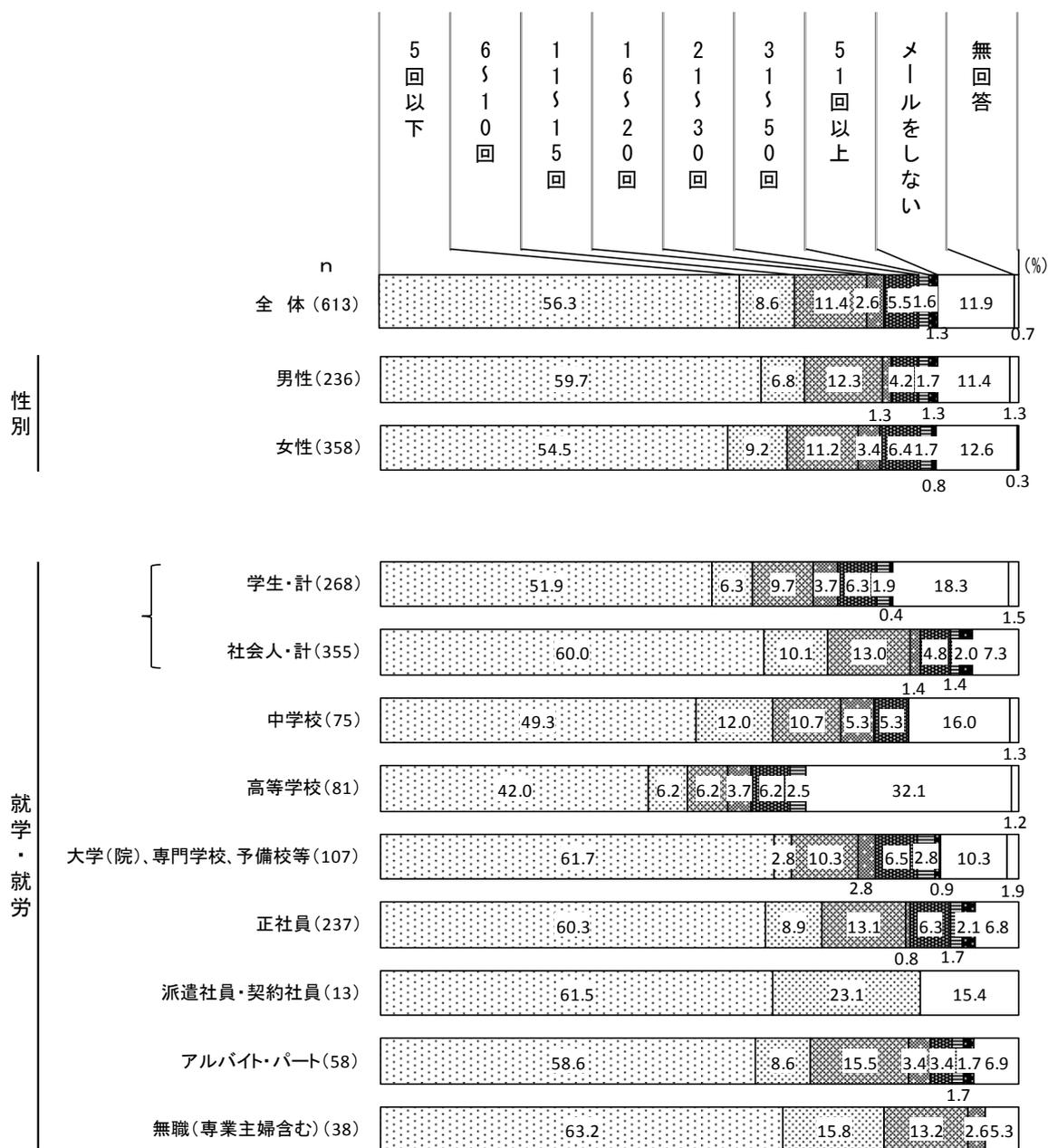
1日のメールの送信回数は、「5回以下」の割合が56.3%で最も高く、以下、「11~15回」(11.4%)、「6~10回」(8.6%)、「21~30回」(5.5%)の順となっている。なお、「メールをしない」の割合は11.9%となっている。

性別でみると、「5回以下」の割合は、【男性】が59.7%、【女性】が54.5%と、【女性】のほうが5.2ポイント低くなっており、送信回数が多い傾向がみられる。

就学・就労別でみると、すべての属性で「5回以下」の割合が最も高くなっている。また、【高等学校】では、「メールをしない」の割合が32.1%と、他の属性よりも高くなっている。

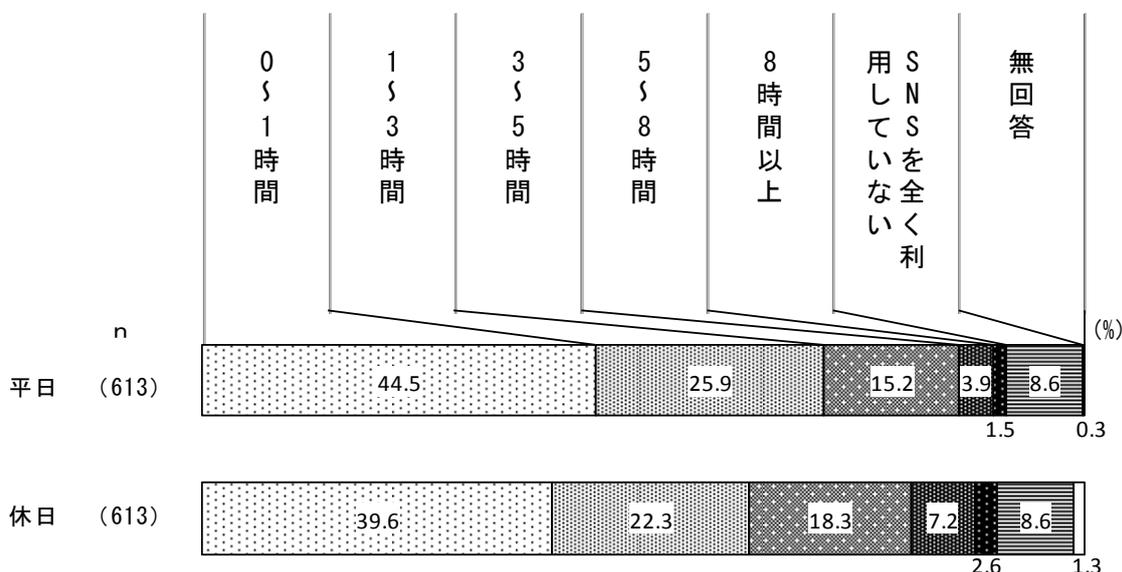
参考値ではあるが、平成22年度調査と比較するとメール送信回数が減少し、「メールをしない」割合が増加している。

○1日のメールの送信回数（性別／就学・就労別）



(5) 1日あたりのSNS利用時間

【問9で「インターネット接続機器を利用している」と回答した方への質問】
 問9④ あなたは1日に何時間くらいSNS（LINE、Facebook、Twitterなど）を利用しますか。平日・休日それぞれ1つずつお答えください。



1日あたりのSNS利用時間（平日）は、「0～1時間」の割合が44.5%で最も高く、以下、「1～3時間」（25.9%）、「3～5時間」（15.2%）、「5～8時間」（3.9%）の順となっている。

1日あたりのSNS利用時間（休日）は、「0～1時間」の割合が39.6%で最も高く、以下、「1～3時間」（22.3%）、「3～5時間」（18.3%）、「5～8時間」（7.2%）の順となっている。なお、「SNSを全く利用していない」割合は、8.6%となっている。

1日あたりのSNS利用時間（平日）について性別でみると、【男性】の場合「0～1時間」の割合が54.7%と半数以上を占めており、【男性】に比べて【女性】のほうが利用時間は長い傾向にある。

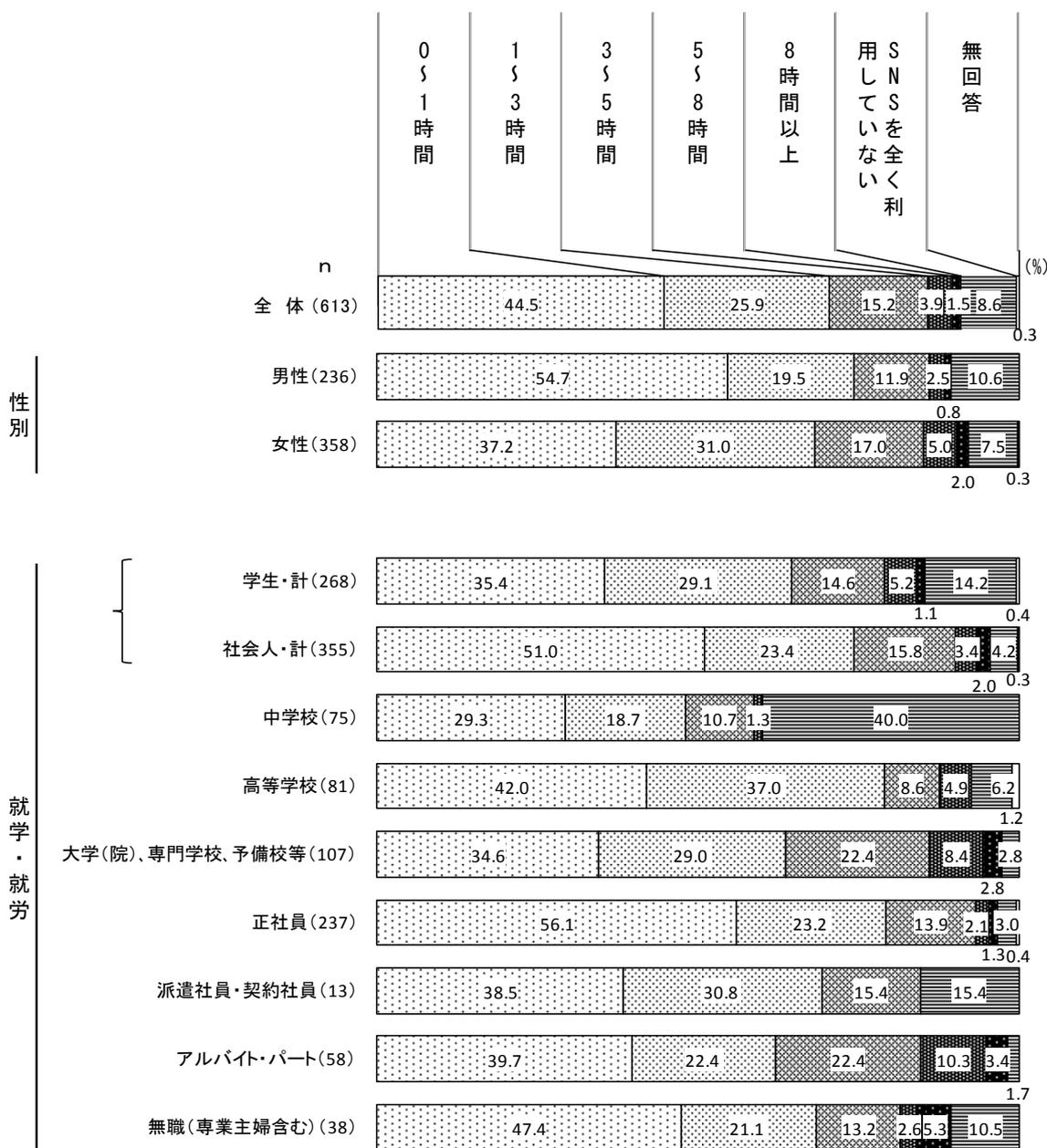
1日あたりのSNS利用時間（平日）について就学・就労別でみると、【高等学校】では「1～3時間」の割合が37.0%と、他の属性と比べて高くなっている。また、【大学（院）、専門学校、予備校等】では総じて利用時間が長い傾向がみられる。なお、【中学校】では「SNSを全く利用していない」割合が40.0%と最も高い。

1日あたりのSNS利用時間（休日）について性別でみると、【男性】の場合「0～1時間」の割合が49.6%と約半数を占めており、【男性】に比べて【女性】のほうが利用時間は長い傾向にある。

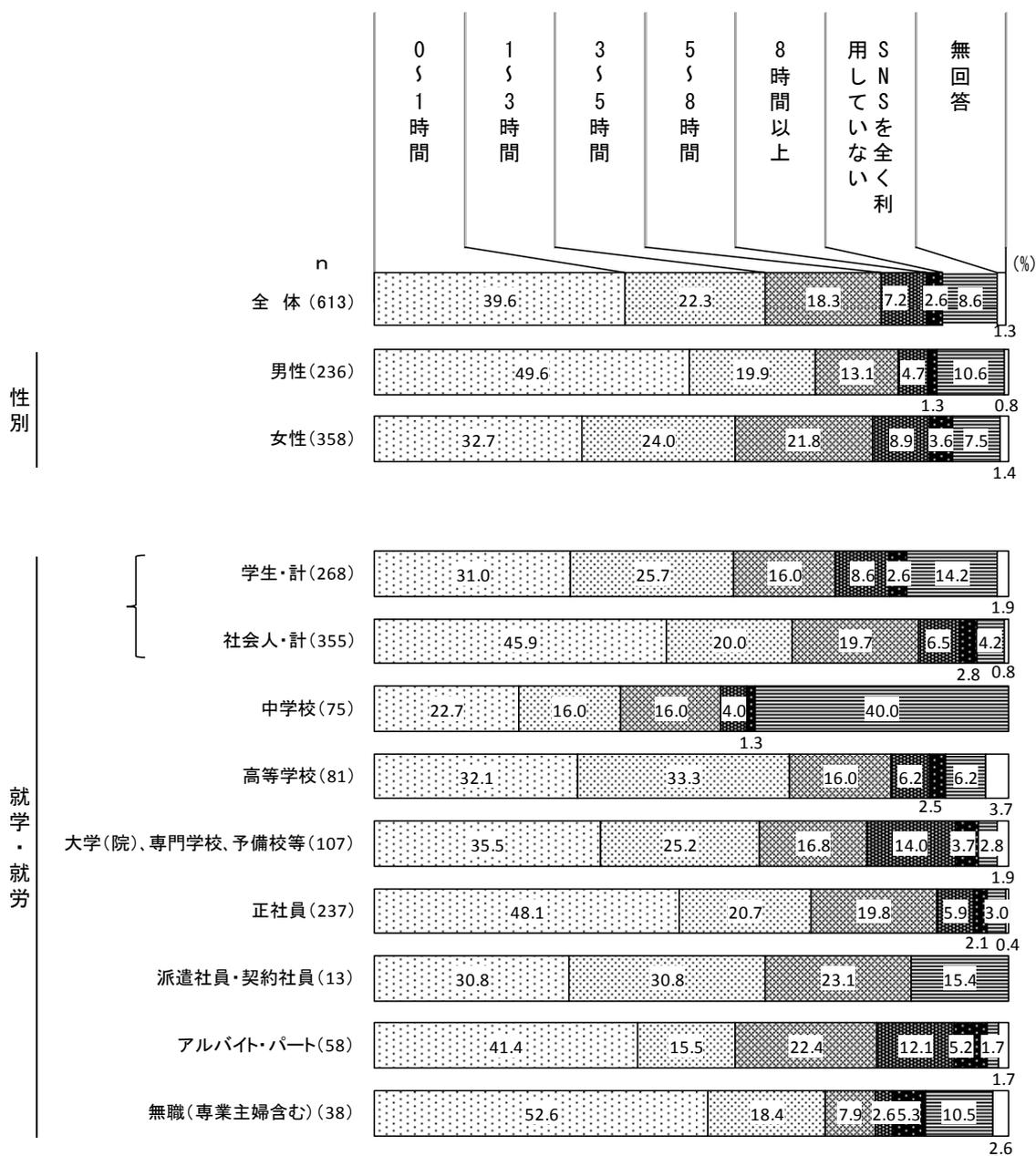
1日あたりのSNS利用時間（休日）について就学・就労別でみると、【大学（院）、専門学校、予備校等】では総じて利用時間が長い傾向にある。

また、【平日】と【休日】の利用時間を比較すると、全体的に【休日】のほうが利用時間が長い傾向にある。

○平日における1日あたりのSNS利用時間（性別／就学・就労別）



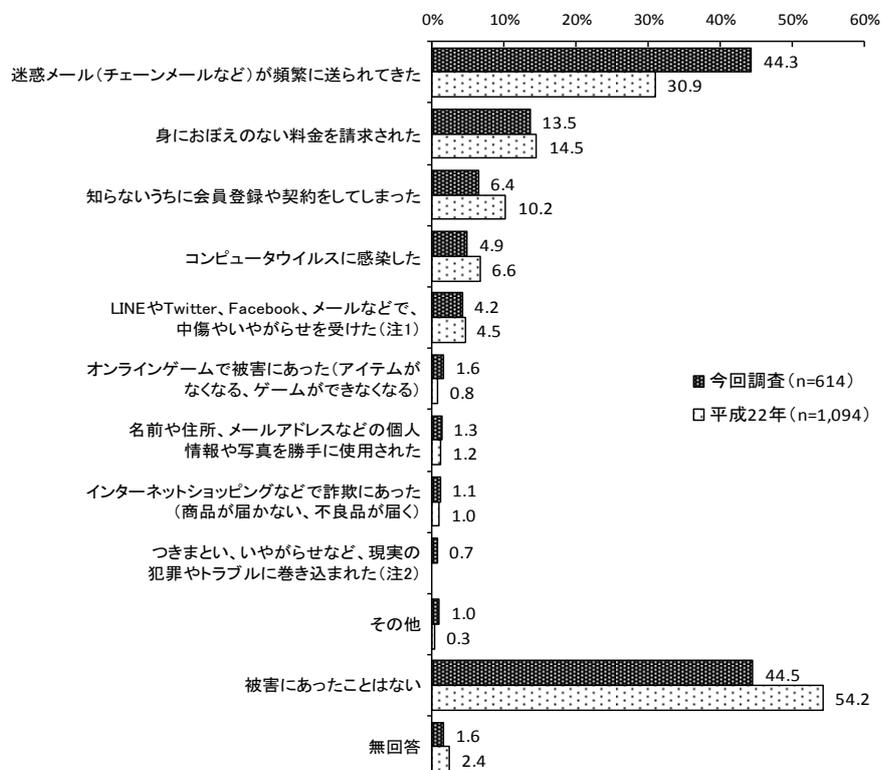
○休日における1日あたりのSNS利用時間（性別／就学・就労別）



(6) インターネット利用によるトラブル被害経験の有無、内容

【問9で「インターネット接続機器を利用している」「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した方への質問】

問9⑤ あなたは、インターネットを利用して、次のようなトラブルにあったことがありますか。(〇はいくつでも)



(注1) の項目は、平成22年度調査では「掲示板、プロフやメールなどで中傷やいやがらせを受けた」

(注2) の項目は、今回調査から調査項目に加わったため、平成22年度調査は非調査

インターネット利用によるトラブル被害経験の有無は、「被害にあったことはない」が44.5%となっている。被害の中では、「迷惑メール(チェーンメールなど)が頻繁に送られてきた」の割合が44.3%で最も高く、以下、「身におぼえのない料金を請求された」(13.5%)、「知らないうちに会員登録や契約をしてしまった」(6.4%)、「コンピュータウイルスに感染した」(4.9%)、「LINEやTwitter、Facebook、メールなどで、中傷やいやがらせを受けた」(4.2%)の順となっている。

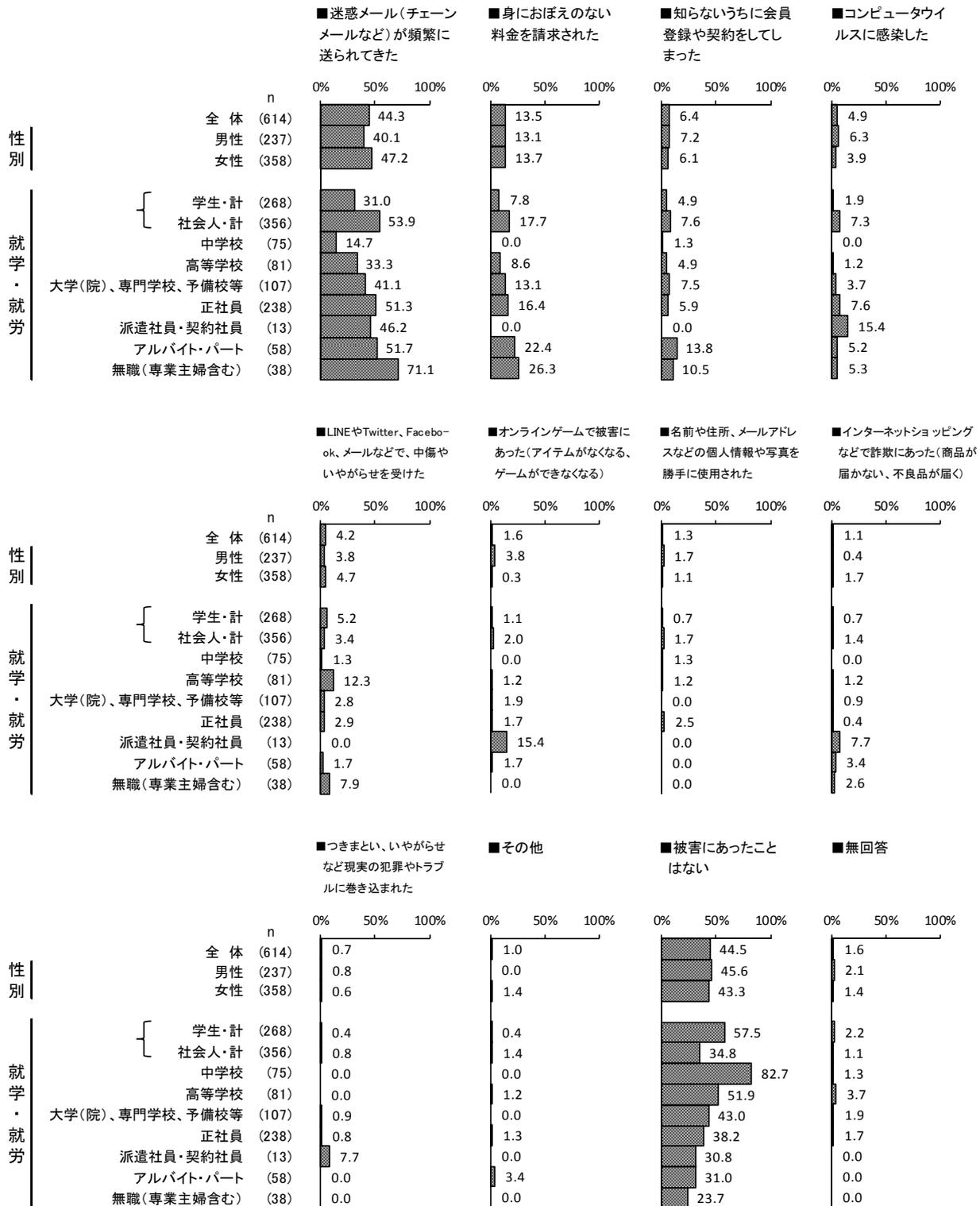
平成22年度調査と比較すると、「被害にあったことはない」が9.7ポイント減少し、「迷惑メール(チェーンメールなど)が頻繁に送られてきた」が13.4ポイント増加している。

性別で見ると、「迷惑メール(チェーンメールなど)が頻繁に送られてきた」の割合が【男性】よりも【女性】で7.1ポイント高くなっている。

就学・就労別では、「被害にあったことはない」の割合が【中学校】で82.7%と高くなっている。また、「迷惑メール(チェーンメールなど)が頻繁に送られてきた」の割合が【無職(専業主婦含む)】で71.1%と高くなっている。

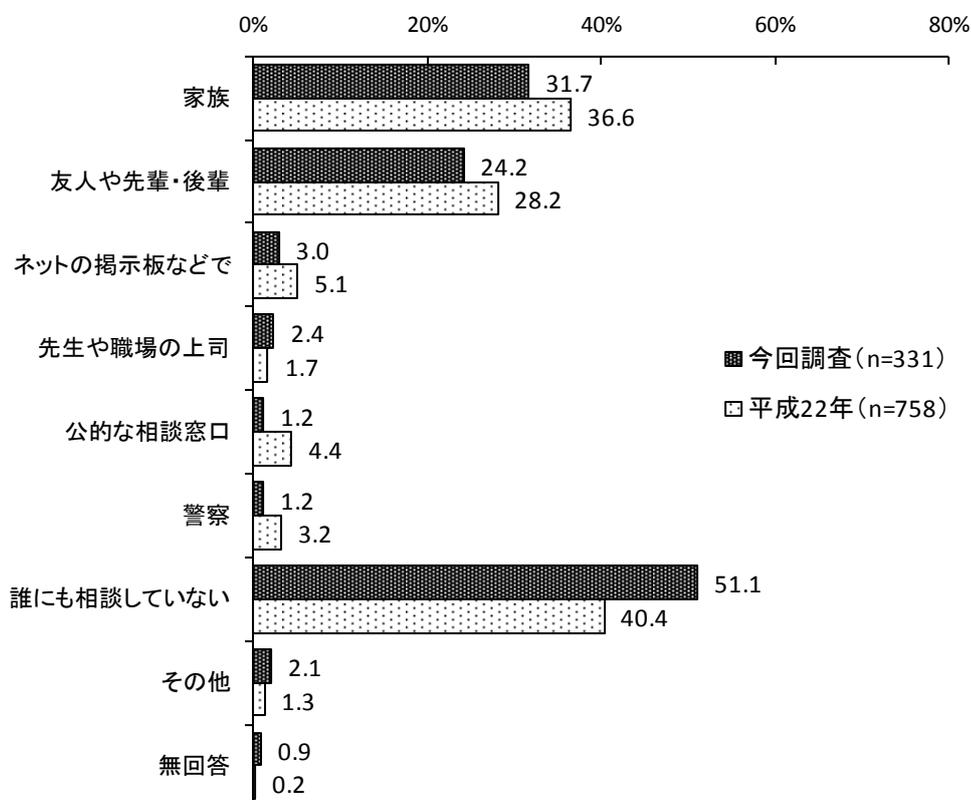
第2部 調査結果の詳細

○インターネット利用によるトラブル被害経験の有無、内容（性別／就学・就労別）



(7) インターネット利用によるトラブル被害時の相談相手

【問9⑤で「インターネット利用によるトラブル被害にあった」と回答した方への質問】
 問9⑥ あなたは、トラブルにあった時、誰に相談しましたか。(〇はいくつでも)

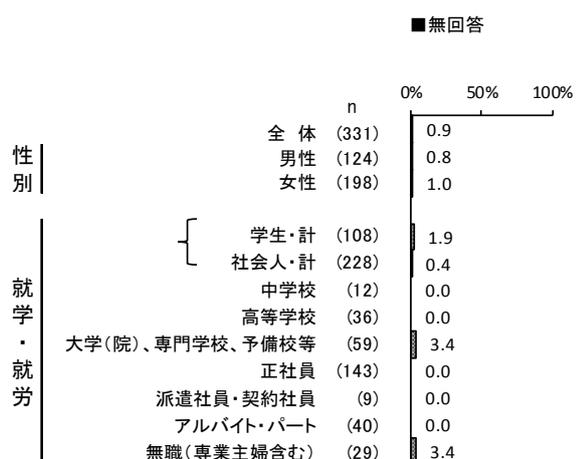
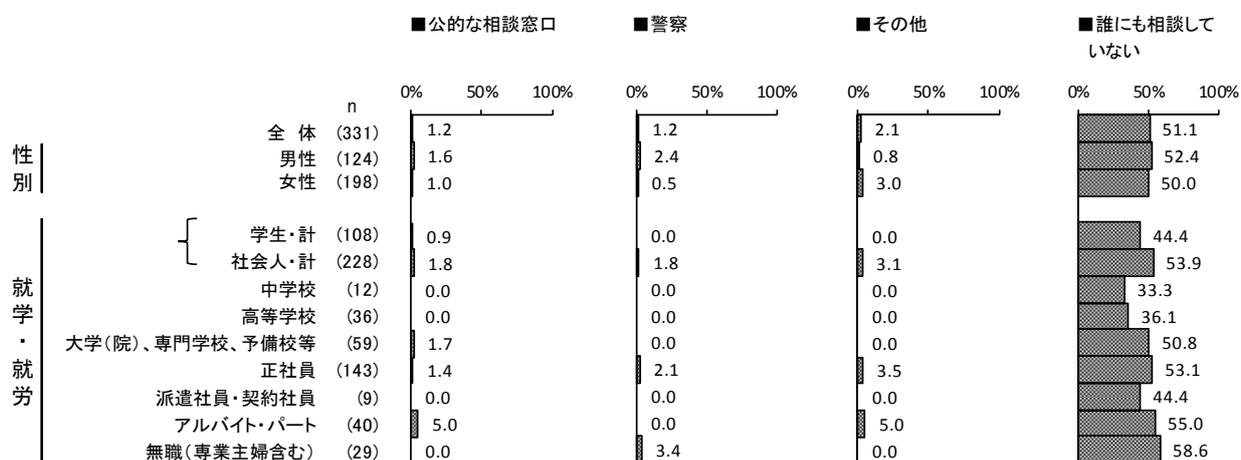
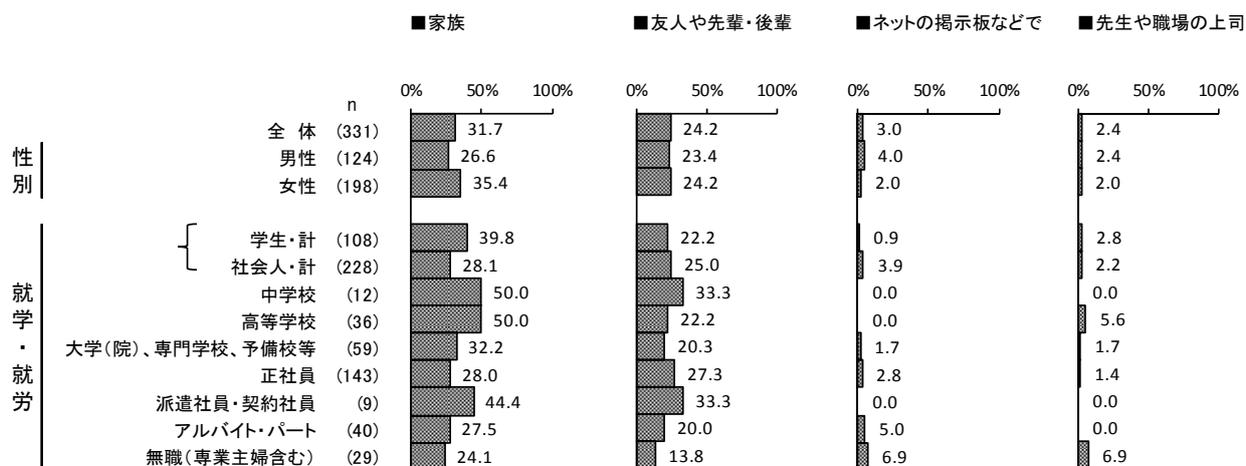


インターネット利用によるトラブル被害時の相談相手については、「誰にも相談していない」の割合が51.1%となっている。相談相手の中では、「家族」の割合が31.7%で最も高く、以下、「友人や先輩・後輩」(24.2%)、「ネットの掲示板などで」(3.0%)、「先生や職場の上司」(2.4%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「誰にも相談していない」が10.7ポイント増加している。

性別でみると、【女性】では相談相手として「家族」の割合が35.4%と、【男性】に比べて8.8ポイント高くなっている。

就学・就労別では、【社会人・計】において「誰にも相談していない」の割合が53.9%と、【学生・計】に比べて9.5ポイント高くなっている。

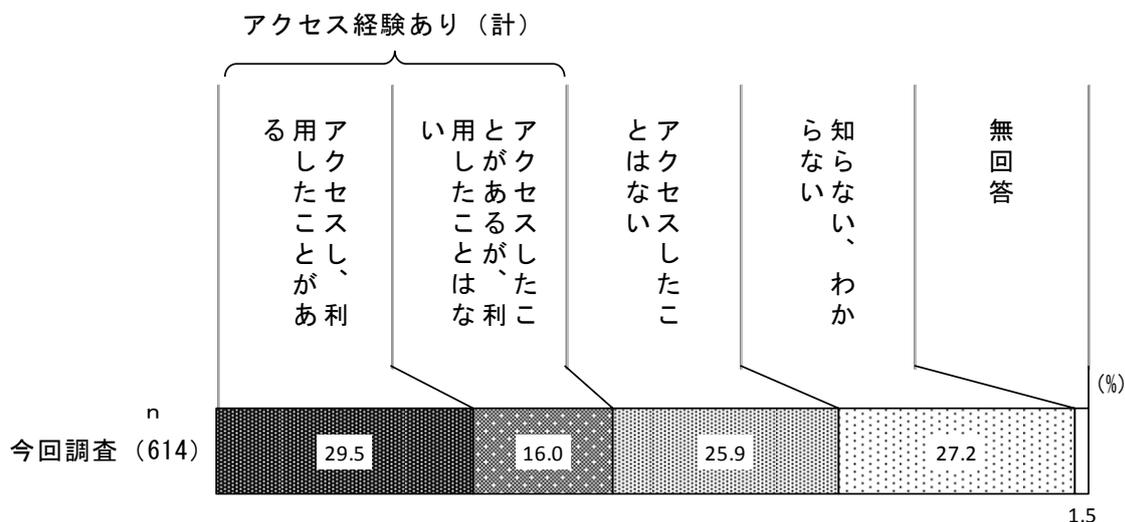
○インターネット利用によるトラブル被害時の相談相手（性別／就学・就労別）



(8) コミュニティサイトへのアクセス経験

【問9で「インターネット接続機器を利用している」「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した方への質問】

問9⑦ あなたは、「コミュニティサイト」にアクセスしたことがありますか。(○は1つだけ)

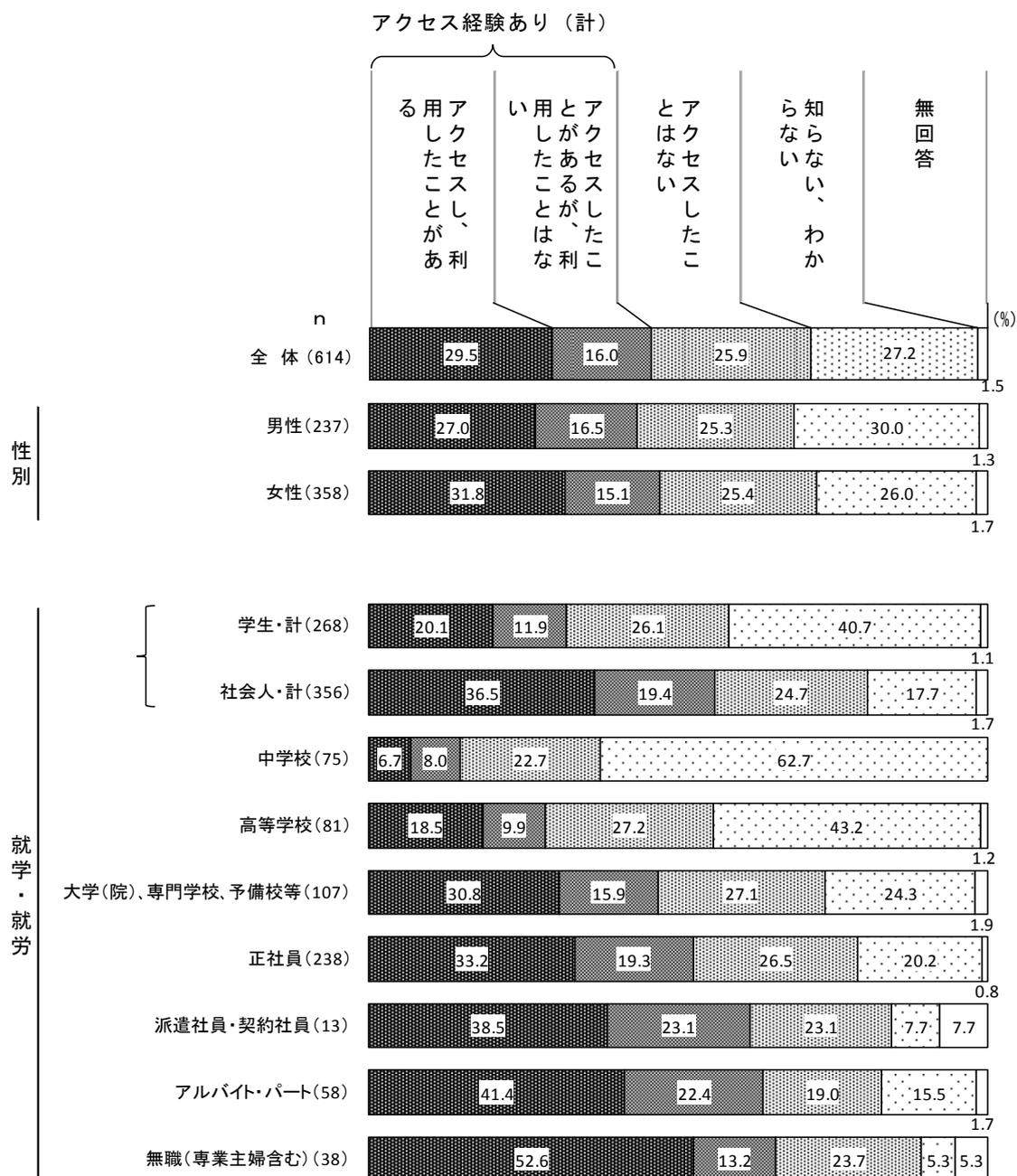


コミュニティサイトへのアクセス経験は、「アクセスし、利用したことがある」の割合が29.5%で最も高くなっており、「アクセスしたことがあるが、利用したことはない」(16.0%)を合わせた『アクセス経験あり (計)』の割合は45.5%となっている。

性別で見ると、「アクセスし、利用したことがある」の割合は、男女とも3割前後となっている。

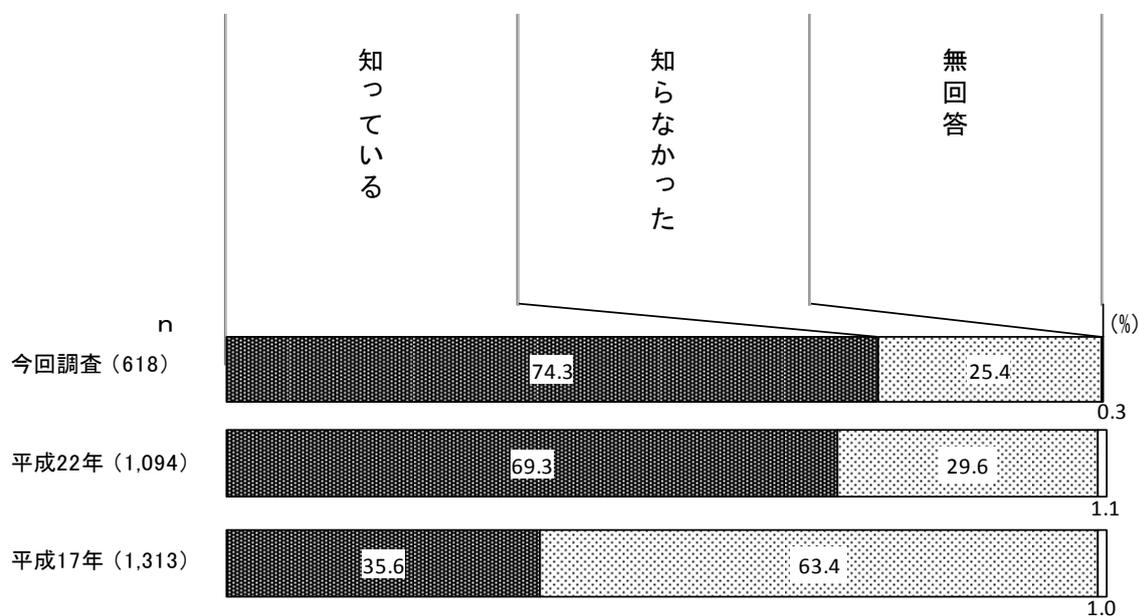
就学・就労別で見ると、「アクセスし、利用したことがある」の割合は、【学生】よりも【社会人】のほうが高く、なかでも【無職 (専業主婦含む)】では52.6%、【アルバイト・パート】では41.4%と、他の属性に比べて高くなっている。一方、【中学校】では「知らない、わからない」の割合が62.7%と最も高くなっている。

○コミュニティサイトへのアクセス経験（性別／就学・就労別）



(9) フィルタリングソフトの認知状況

問10 あなたは、パソコン・携帯電話などの「フィルタリングソフト」を知っていますか。
(〇は1つだけ)

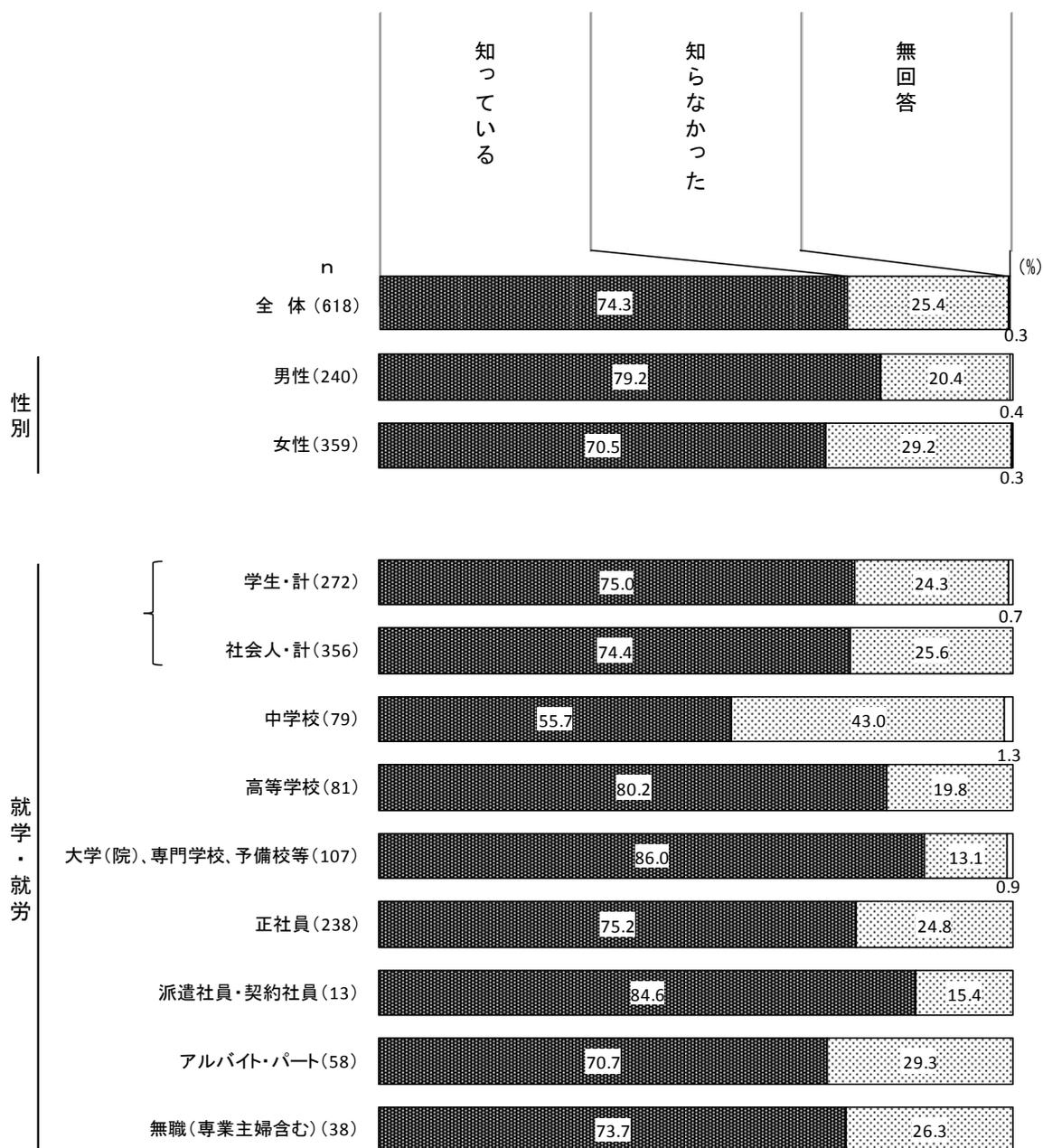


フィルタリングソフト認知状況は、「知っている」(74.3%)、「知らなかった」(25.4%)となっている。平成22年度調査と比較すると、「知っている」が5.0ポイント増加しており、認知度は高くなってきているといえる。

性別でみると、「知っている」割合は、【男性】が79.2%と【女性】より8.7ポイント高くなっている。

就学・就労別でみると、【大学(院)、専門学校、予備校等】で「知っている」割合が86.0%となっており、他の属性に比べて認知度が高くなっている。

○フィルタリングソフトの認知状況（性別／就学・就労別）

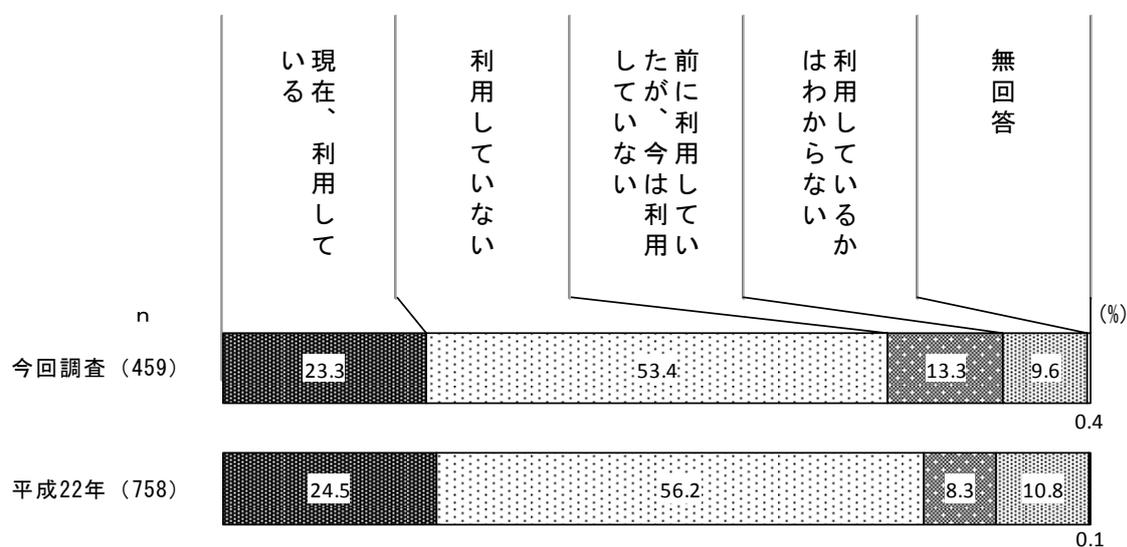


(10) フィルタリングソフトの利用状況

【問10で「知っている」と回答した方への質問】

問10① あなたの「フィルタリングソフト」の利用について記入してください。

(○は1つだけ)

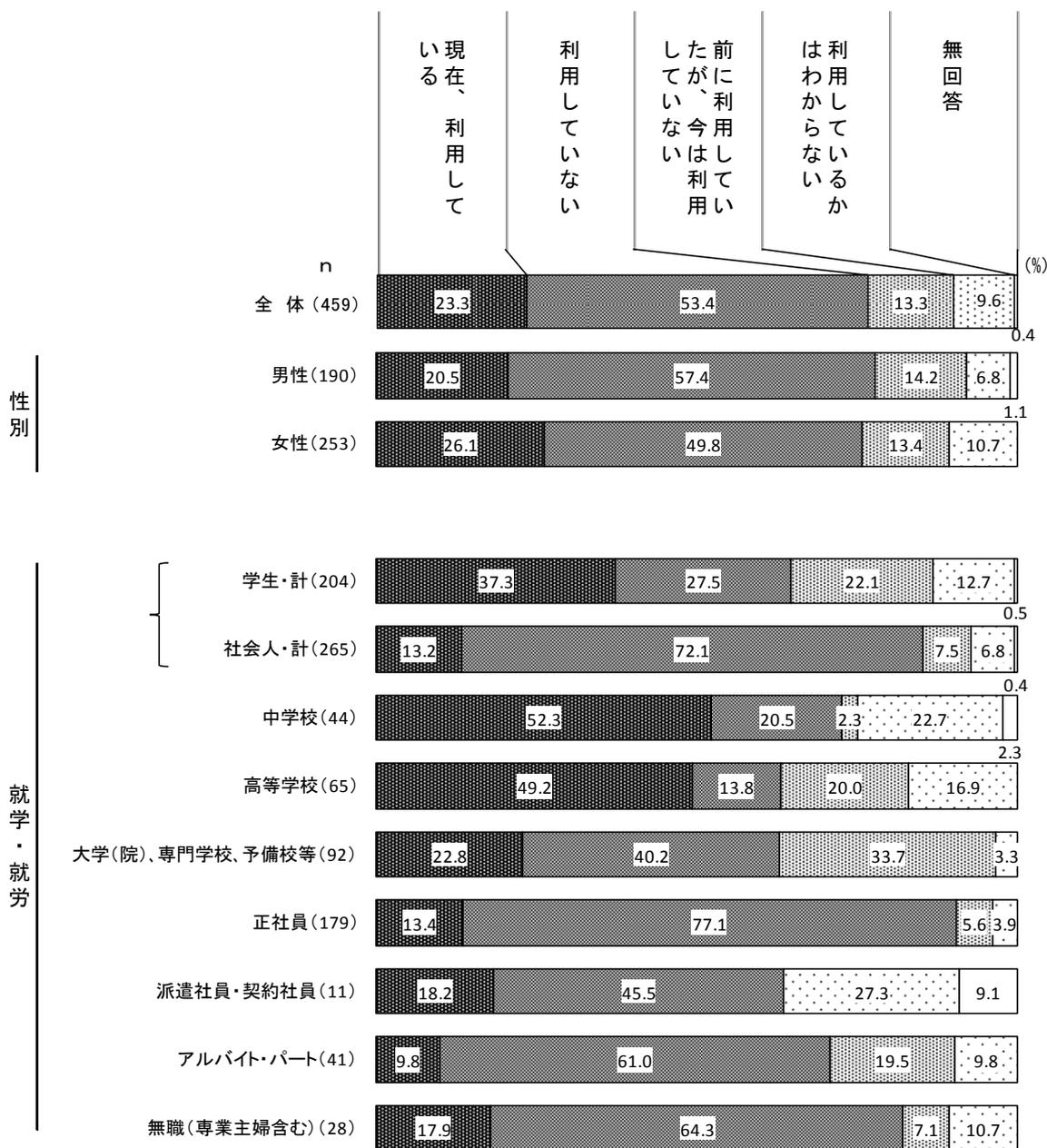


フィルタリングソフトの利用状況は、「利用していない」の割合が53.4%で最も高く、以下、「現在、利用している」(23.3%)、「前に利用していたが、今は利用していない」(13.3%)、「利用しているかはわからない」(9.6%)の順となっている。なお、平成22年度調査と比較しても、特に大きな差異はみられない。前項(9)フィルタリングソフトの認知状況においては、認知度は70%以上であるのに、利用状況は低くなっている。

性別でみると、「現在、利用している」割合は、【女性】のほうが26.1%と若干高くなっている。

就学・就労別でみると、「現在、利用している」割合は、【中学校】(52.3%)と【高等学校】(49.2%)で高くなっている。

○フィルタリングソフトの利用状況（性別／就学・就労別）

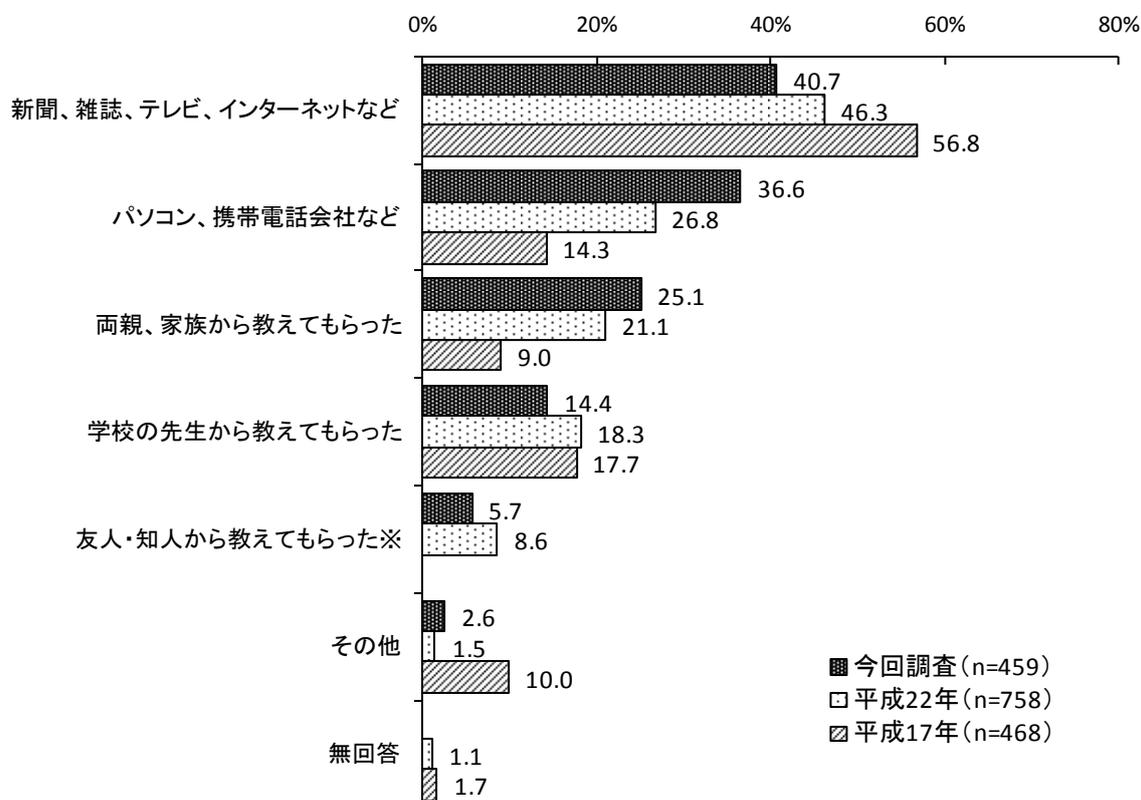


(11) フィルタリングソフトの認知経路

【問10で「知っている」と回答した方への質問】

問10② あなたは、「フィルタリングソフト」の存在をどこで知りましたか。

(〇はいくつでも)



※の項目は、平成22年度調査から調査項目に加わったため、平成17年度調査は非調査

フィルタリングソフトの認知経路は、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど」の割合が40.7%で最も高く、以下、「パソコン、携帯電話会社など」(36.6%)、「両親、家族から教えてもらった」(25.1%)、「学校の先生から教えてもらった」(14.4%)、「友人・知人から教えてもらった」(5.7%)の順となっている。平成22年度調査と比較すると、「パソコン、携帯電話会社など」が9.8ポイント増加し、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど」が5.6ポイント減少している。